



2025年8月期

第3四半期決算説明資料

株式会社トリプルアイズ
(証券コード5026)

業績下方修正、棚卸資産評価損と通期赤字

エッジAIの可能性 / AI GPUサーバー

暗号資産トレジャリー事業支援

CONTENTS

連結業績予想修正

GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278M及び、AIソリューション事業及びGPUサーバー事業における売上高、営業利益の減少、これらに伴う税効果の取り崩し71Mの計上見込により業績予想の修正を行います。

(百万円)	2025年8月期 期初業績予想	2025年8月期 修正業績予想 (今回発表)	増減額	増減率	(ご参考) 前期実績 (2024年8月期)
売上高	5,992	5,650	△341	△5.7%	4,410
営業利益 ・損失(△)	111	△83	△195	-	38
経常利益	98	3	△95	△96.8%	47
親会社株主に帰属 する当期純利益 ・損失(△)	30	△375	△406	-	76

修正背景①

棚卸資産評価損278百万円の特別損失の計上及び、AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた繰延税金資産の取り崩し71百万円の通期計上見込み

GPUサーバー事業における令和7年度税制改正により、GPUを用いた暗号資産マイニングマシンの販売が低迷したことに伴い、当該GPUマシンの販売を終了し、棚卸資産評価損278百万円を計上しました。

今後、GPUサーバー事業においては、データセンター向けのAI開発用途GPUマシン及びASICを用いた暗号資産マイニングマシンの販売、暗号資産トレジャリー事業支援に注力します。

また、上記に加え、AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた当期連結業績予想の修正に合わせて、通算グループにおける将来の課税所得の見直しを行い、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額71百万円の計上を通期で見込んでおります。

修正背景②

AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた売上高及び営業利益の減少

(百万円)	2025年8月期 第3四半期累計 実績	2025年8月期 通期計画 (業績予想修正後)	修正後 通期計画比 増減
売上高	4,253	5,650	+1,397(※)
営業利益 ・損失(△)	△ 21	△83	△62(※)
経常利益	76	3	△73
当期利益 ・損失(△)	△ 328	△375	△47

※ 4Q売上高の伸び悩み、4Q営業利益の悪化の主な理由

(AIソリューション事業のエンジニアリングサブセグメント)
単価の上昇による売上増を人員数の減少が当初想定を上回る

(AIソリューション事業のAIインテグレーションサブセグメント)
人員確保目的の臨時昇給を3Qに実施

(GPUサーバー事業)
令和7年度税制改正の影響によりGPUマイニングマシンの
需要減少、AI開発用途GPUマシンの新商品の開発に向けた
研究開発費用の増加

CONTENTS

2025年8月期第3四半期業績

GPUサーバー事業において3Q会計期間にて営業利益を計上したものの、AIソリューション事業の「エンジニアリング」サブセグメントでの人員減による3Q会計期間の赤字が響き、3Q連結累計は営業赤字で着地。当期利益は、GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278M及びAIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた税効果の取り崩し69M等の計上により当期純損失で着地。

(百万円)	2024年8月期 第3四半期累計実績	2025年8月期 第3四半期累計実績	前年同期比	2025年8月期 通期計画 (業績予想修正後)	進捗率
売上高	3,033	3Q 過去 最高 4,253	140.2%	5,650	75.3%
売上総利益	1,028	3Q 過去 最高 1,357	131.9%	1,740	78.0%
営業利益 ・ 損失(△)	19	△ 21	—	△83	—
EBITDA	173	258	148.7%	222	115.9%
経常利益	49	76	154.9%	3	—
当期利益・損失(△)	42	△ 328	—	△375	—

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

<売上高>

売上高は前年同期比140.2%となり、エンジニアリングの好調と連結取り込みにより、大きく伸長

→AIソリューション事業の「AIインテグレーション」サブセグメントでは、生成AI関連案件の需要増により、引き続きAIラボ契約(月額固定のAIコンサル/開発契約)の受注が拡大（AIラボ案件事例頁参照）。AI請負案件も増加中

→AIソリューション事業の「AIプロダクト」サブセグメントでは、AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」を販売開始、アプリディレクトリ登録が完了し、マーケティングが加速

→AIソリューション事業の「エンジニアリング」サブセグメントでは、BEXがトヨタグループを中心とした取引が安定的に推移し、4月以降で人員単価10%超アップを実現する案件が多数あったが、人数減が当初想定を上回ったため、3Q以降は売上が減少

<売上総利益/営業利益/経常利益/EBITDA>

売上総利益は前年同期比131.9%、営業利益は昨年より悪化し赤字で着地、EBITDAは前年同期比148.7%、経常利益は前年同期比154.9%に成長

→「AIインテグレーション」における単価上昇、AIラボ契約拡大などが利益に寄与

→「エンジニアリング」においては高稼働率を維持しているものの、5月に臨時賞与32Mを支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、3Q以降利益水準が低下

→販管費は、「AIインテグレーション」における3Qで新卒入社による社員増及び「エンジニアリング」における上記臨時賞与の影響で、対2Q比較で約24M増加

→GPUサーバー事業において、3Qは節税ニーズの需要拡大により、3月に大きく営業利益を計上し、3Q会計期間で営業利益は52M改善し、3Q累計は営業損失55Mで着地。また、2Q計上の保険解約返戻金56M、暗号資産相場が堅調に推移したため、3Q経常利益は41Mで着地し、黒字転換。税制改正の影響を踏まえ、今後はAI開発用途向けのGPUサーバーの販売を進める予定。

<当期利益>

経常利益は黒字であるものの、**GPUサーバー事業における棚卸資産評価損278Mの計上及びAIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた業績予想修正に伴う繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額69Mの計上等、当期純損失を計上**

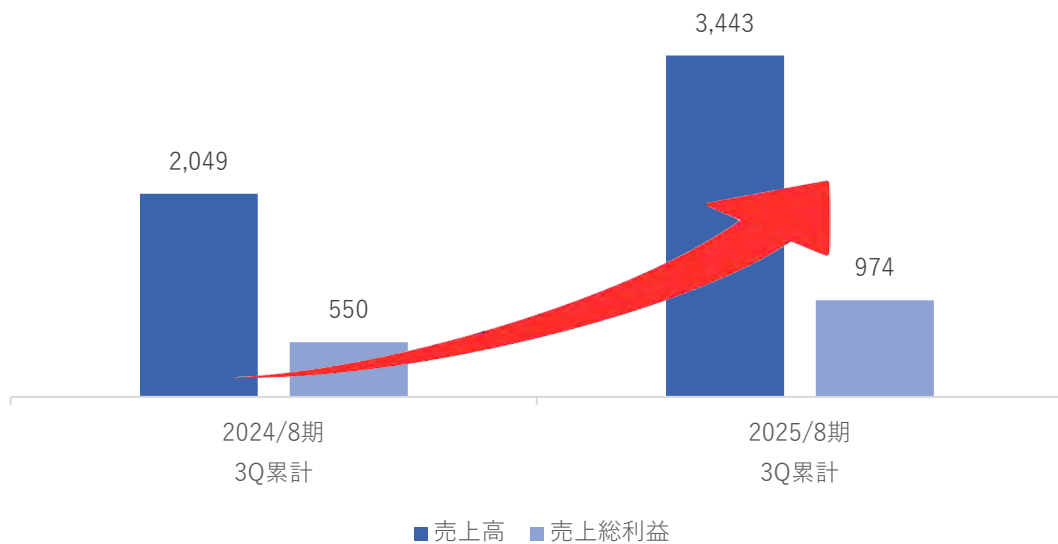
	AIソリューション事業			GPUサーバー事業		
(百万円)	2024年8月期 第3四半期 累計実績	2025年8月期 第3四半期 累計実績	前年同期比	2024年8月期 第3四半期 累計実績	2025年8月期 第3四半期 累計実績	前年同期比
売上高	2,049	3,443	168.0%	1,013	818	80.8%
売上総利益	550	974	177.0%	508	391	77.1%
営業利益・損失(△)	41	32	78.4%	△ 21	△ 55	—
EBITDA	58	107	185.4%	115	150	130.3%
経常利益	38	34	89.8%	10	41	389.2%

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

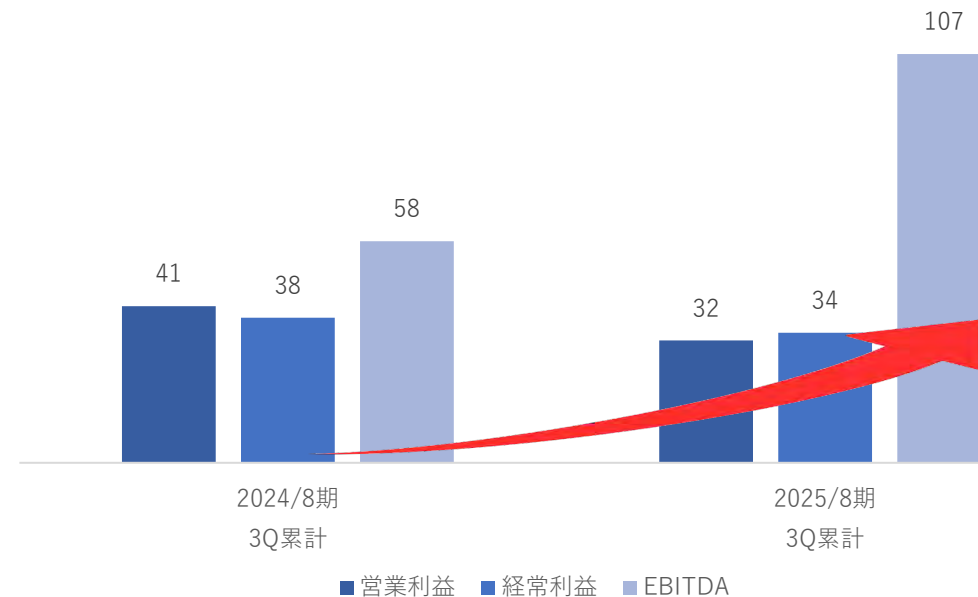
※セグメント別業績については、2025年8月期からの経営指導料等の計上区分変更の会計方針の変更に伴い、2024年8月期の実績を遡及修正しています。

AIソリューション事業は、AIインテグレーション、AIプロダクトに加えて、BEXが行っているエンジニアリング(自動車設計)で主に構成されております。**売上高は前年同期比で68.0%増加、売上総利益は前年同期比で77.0%増加、営業利益、経常利益は前年度並みで引き続き好調**であり、**EBITDAは前年同期比で85.4%増加**。AIインテグレーションはオーガニックに成長、またBEXは、5月臨時賞与32Mを支給し、人員減は当初想定を上回ったこと等により、下期は利益水準が低下する見込み。

売上高及び売上総利益 (百万円)



営業利益、経常利益、EBITDA推移 (百万円)



AIインテグレーション

- ・ 商流改善や単価上昇による社員平均粗利額の増加、BP粗利率の改善
- ・ 24年9月に資本業務提携したゲームカードジョイコホールディングス社からDX/AI案件開発/保守業務を受注が拡大し、業務提携が順調に進行中
- ・ **生成AI関連の開発需要増に伴い、AIラボ契約は引き続き安定的に拡大中。**これに加え、AIラボ契約から**AI請負案件が増加、RAG開発、行動分析AIなど幅広く対応中**
- ・ パッケージソフト「PRISM」(医薬品卸向けクラウド販売管理システム)事業が順調に成長中、新規受注及び既存顧客からの追加受注が拡大

AI
プロダクト

- ・ AI顔認証ログインアルコールチェックサービスAIZE Breathの大手物流会社への導入開始
- ・ **AI顔認証ログインクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」を販売開始、アプリディレクトリ登録が完了し、マーケティングが加速**
- ・ 他社人事労務管理システムとの顔認証打刻新規API連携開始

エンジニア
リング

- ・ 自動車業界内としては、全体の生産台数は好調に推移している。新車/新技術の開発意欲も旺盛で、トヨタグループとの取引は高稼働率を維持している。米国の関税強化の影響については、開発人材ニーズが強いものの、本事業への影響は注視が必要
- ・ 高稼働率を維持し、**単価は向上しているものの、5月に臨時賞与32Mを支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、3Q以降利益水準が低下**
- ・ トリプルアイズと共同で、自動車設計業務効率化のためのAIソフト開発のプロジェクトチームを組成、複数の設計効率化ソフトを試作開発中

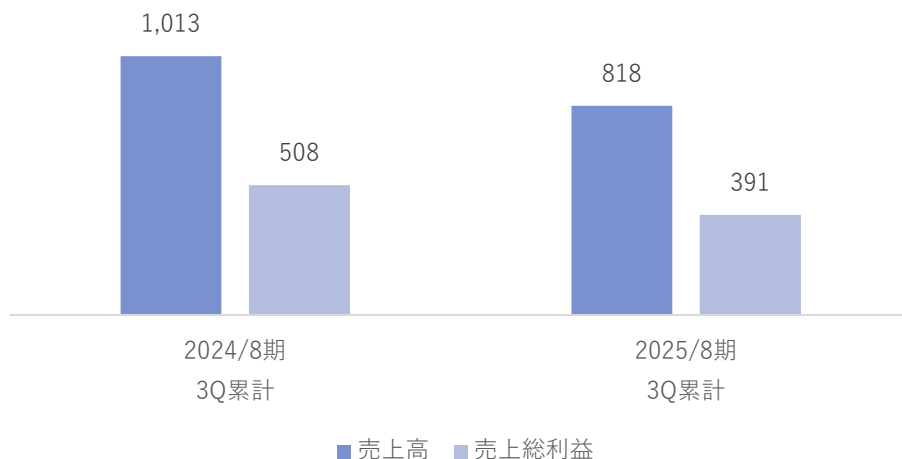
3Qは節税ニーズの需要拡大により、3月に大きく営業利益を計上、3Q会計期間で営業利益は52M改善し、3Q累計は営業損失55Mで着地。また、2Q計上の保険解約返戻金56M、暗号資産相場が堅調に推移したため、3Q経常利益は41Mで着地し、黒字転換。税制改正の影響を踏まえ、今後はAI開発用途向けのGPUサーバーの販売を進める予定。

GPUサーバー事業

- ・ 税制優遇措置に伴う需要増により、3月に売上239M計上
- ・ GPUサーバー for AI事業およびデータセンター事業において、電力活用型マイニングおよびAI向けGPUサーバーの販促強化に向け、専用LPを公開
- ・ マイニングマシンの販売台数・顧客数・自社データセンター稼働顧客数において、4年連続で国内No.1（東京商工リサーチ調べ）を達成
- ・ 株式会社マックハウスとの暗号資産事業における包括的協業を締結し、暗号資産トレジャリー事業支援開始
- ・ 販売代理店の募集範囲を拡大し、新規代理店の獲得を推進

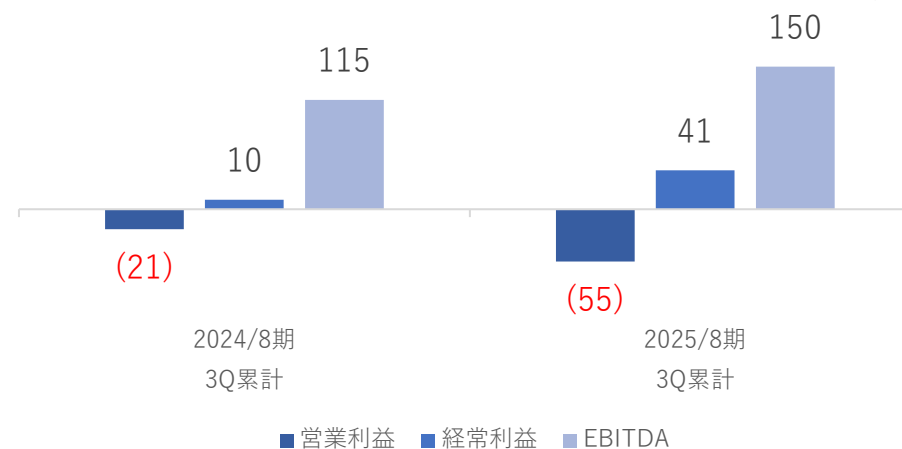
売上高及び売上総利益推移

(百万円)

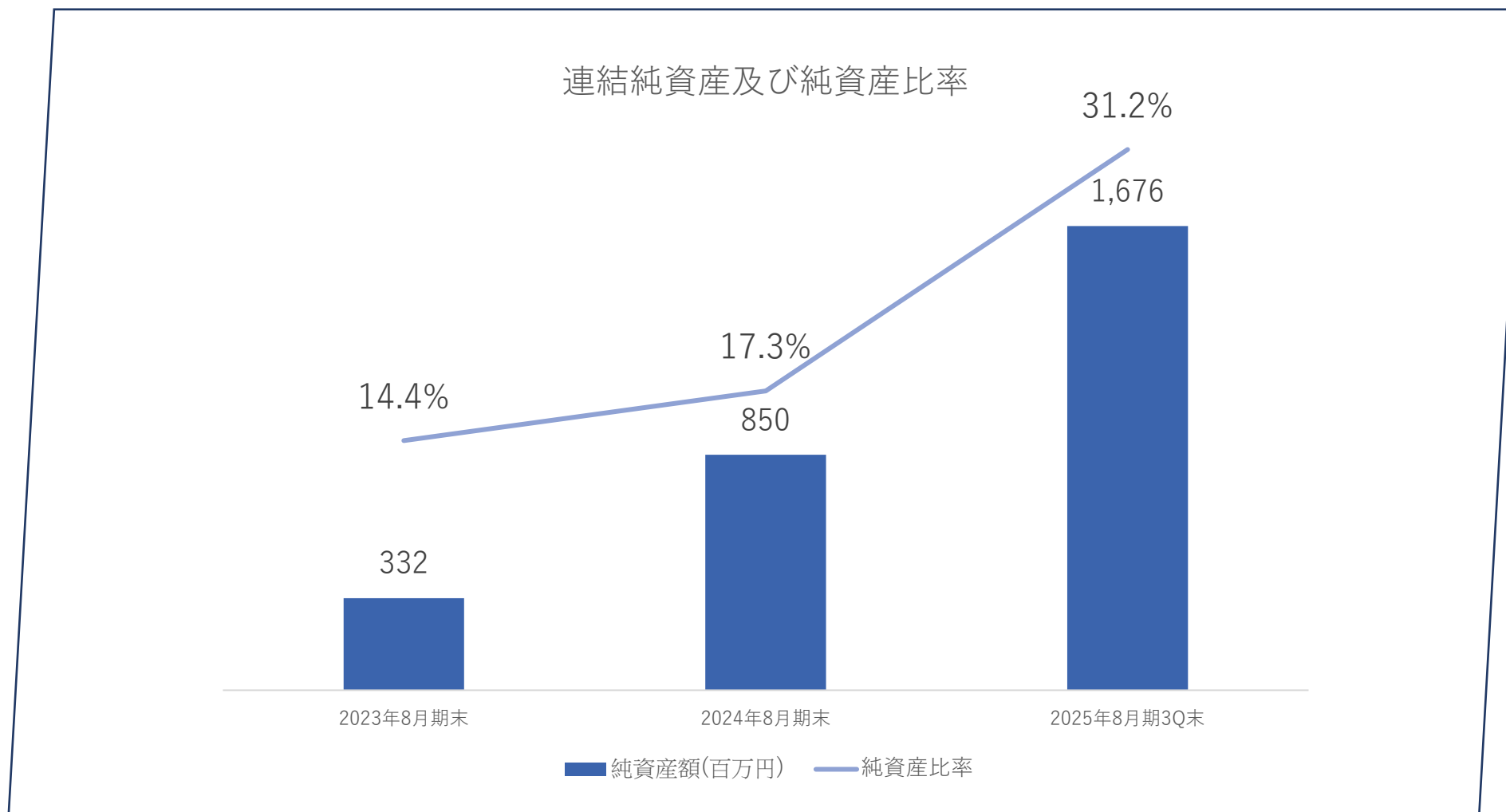


営業利益、経常利益、EBITDA推移

(百万円)



GPUサーバー事業において棚卸資産評価損278百万円を計上したものの、グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、前期末と比較して**純資産は826百万円増加し、純資産比率は31.2%に上昇したことで、財務体質が大きく改善**しています。



CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

会 社 名	株式会社トリプルアイズ (英名：TRIPLEIZE CO.,LTD.)
設 立	2008年9月3日
所 在 地	東京都港区芝浦3丁目4-1 グランパークタワー 32F
役 職 員 数	単体：252名 (2025年4月1日現在) / 連結：476名 (2025年4月1日現在)
市 場 区 分	東証グロース市場 (証券コード:5026)
代 表	山田 雄一郎
事 業 内 容	システムインテグレーションおよびAIプラットフォームの提供
関 係 会 社	株式会社所司一門将棋センター、株式会社シンプルプラン、 株式会社ゼロフィールド、株式会社BEX
特 許	情報処理装置、情報処理方法、及びプログラム (出願番号：特願2020-067799) 複数拠点における時間的整合性を根拠とする本人認証AIシステム
資 格	ISO 9001 JQA-QMA15648 (品質)、ISO/IEC 27001 JQA-IM1456 (情報セキュリティ) ISO/IEC 27017 JQA-IC0003 (クラウドサービスセキュリティ)



当社は、①AIプラットフォーム展開、②レガシー産業へのAI実装、③GPUサーバー事業の推進という3つの戦略に、同規模以上のM&Aの実施、資本業務提携、第三者割当増資なども組み合わせ、AIの社会実装を目指します。

事業セグメント及び事業の特徴

AIソリューション事業

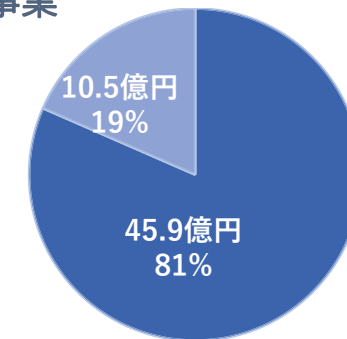
AIインテグレーション(AI/システム開発)、AIプロダクト(自社サービス)とエンジニアリング(自動車設計)の3つのサブセグメントから構成。国産でのオーダーメイド独自AIモデル開発、トヨタグループからも信頼される自動車設計力が強み。

GPUサーバー事業

暗号資産マイニング用途およびAI開発用途GPUサーバーの販売、データセンターの販売・保守運用。ソフトウェア開発力、保守運用までを一貫して担う技術力に加え、高効率なデータセンター構築が強みで、収益性の高い事業構造。

セグメント別売上構成比

GPUサーバ事業



AIソリューション事業

(2025/8期予想)

業 績

	2023年8月期 (実績)	2024年8月期 (実績)	2025年8月期 (予想：前期比)
売上高	23.4億円	44.1億円	56.5億円
EBITDA	△2.7億円	2.2億円	2.2億円

組 織

当社グループ



全 5 社

役職員



476人

深層学習（ディープラーニング）発明 … 2006
2008

ISLVRで深層学習手法を駆使するトロント大圧勝 … 2012
Google社、機械学習による猫の画像認識に成功 2014

DeepMind社の囲碁AI「alphaGo」、プロ棋士に勝利 … 2016

人知を超える神の一手が打たれた！



出典
<https://www.asahi.com/articles/ASK4B5SJ4K4BUCLV00Y.html>

OpenAI社のGPT-3.5発表 … 2022

Evolution of AI

ジェフリー・ヒントン氏、ノーベル物理学賞受賞
デミス・ハサビス氏、ノーベル化学賞受賞 …

2017

2019

2020

2021

2023

2024

- … 9月 東京都千代田区に株式会社トリプルアイズを設立
- … 8月 社内に囲碁AIプロジェクトチーム発足
- … 4月 国内初、「ブロックチェーン推進協会」設立を支援
- … 7月 AI(DeepLearning)基盤となる「Deepize」をリリース
- 8月 測量作業向けドローン制御アプリをApp Storeにてリリース
- … 9月 産業用モーターとITを融合したIoTサービスを開始
- … 3月 AIによる画像認識プラットフォーム「AIZE」(アイズ)を発表
「AI 囲碁世界一奪取宣言」を発表
将棋採用（商標登録）スタート
- 4月 囲碁 AI 世界大会「博思杯2019」にて4位を獲得
- 7月 囲碁 AI 大会「2019 年 CGF オープン」にて1位、2位独占
- 12月 「第11回 UEC 杯コンピュータ囲碁大会」にてGLOBIS-AQZが準優勝
- … 3月 AIZE による顔認証決済サービス「ヤマダ Pay」がスタート
- … 3月 創業者・福原智 急逝 山田雄一郎社長就任
- … 5月 東京証券取引所グロース市場上場
- … 9月 株式会社ゼロフィールドがグループイン
- … 4月 画像認識プラットフォーム・AIZE、10万IDを突破
- 7月 株式会社BEXがグループイン
- 11月 本社移転

トリプルアイズ取締役



代表取締役 山田 雄一郎

早稲田大学商学部卒業。2005年12月EY新日本監査法人入社。2011年3月監査国際部より異動し、成長戦略室等にて官民連携の経営改革・経営統合に係るコンサルティングを9年間実施（うち2012年から2017年は新日本パブリックアフェアーズ株式会社に外向）、多数のプロジェクトマネージャーを歴任。2020年11月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2021年3月、同社代表取締役就任（現任）。



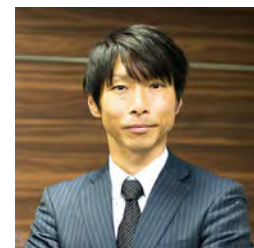
取締役 桐原 永叔

青山学院大学文学部史学科卒業。幻冬舎メディアコンサルティング編集局長を経て真人堂株式会社設立、代表取締役就任。2010年、株式会社ソフィアホールディングス取締役就任。2010年『IT批評』創刊。NTTデータ研究所の開発プロジェクトレポート編纂に参加。IT関連ビジネス書籍を多数編集。2019年12月、株式会社トリプルアイズ取締役就任（現任）



取締役 CFO 加藤 慶

明治大学法学部卒業。ベンチャー・リンクを経て、EY新日本有限責任監査法人のIPO専門部隊に所属、在籍時に三井不動産株式会社ベンチャー共創事業部に出向しCVCファンド組成に携わる。2018年以降、上場準備会社におけるCFO、取締役を歴任。2019年、株式会社すららネット取締役（監査等委員）就任（現任）。2020年、株式会社ライナフ監査役就任（現任）。2021年9月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2023年10月当社グループ会社株式会社ゼロフィールド取締役就任（現任）。2024年7月当社グループ会社株式会社BEX取締役就任（現任）



社外取締役 篠田 庸介

株式会社ヘッドウォータース代表取締役。1989年にベンチャー企業の立上げに参画。以降、起業家としての道を進み、1999年にE-Learning事業を柱とするIT企業を設立。2005年に株式会社ヘッドウォータースを設立し、代表取締役社長に就任。エンジニアを中心に据えたユニークな組織運営や、黎明期のAI・ロボティクス領域への進出などで注目を浴びる。AIの社会実装、Society5.0実現を目指し、ヘッドウォータースグループを牽引する。

グループ役員



ゼロフィールド代表取締役CEO 平嶋 遥介

上智大学理工学部情報理工科、上智大学院理工学研究科卒業後、NTT データに入社し銀行向け勘定系共同センターへの機能追加・開発などを担当。2017年に株式会社ゼロフィールドを創業し、暗号資産関係のビジネスを展開。金融系システムやブロックチェーン関連の深い知識と豊富な経験を有しており、CTOとして開発チームを牽引しながらも、経営者として成長の道を歩む。2023年8月より代表取締役CEOに就任。

技術顧問



松原 仁

京都橘大学工学部情報工学科教授。はこだて未来大学特任教授。京都橘ロボカップ日本委員会会長、観光情報学会長、人工知能学会長などを歴任。1959年、東京生まれ。86年、東京大学大学院情報工学博士課程修了。同年、通産省工業技術院電子技術総合研究所（電総研、現在の産業技術総合研究所）入所。元、東京大学次世代知能科学研究センター（AIセンター）教授。



久保江 勝二

日本電気株式会社（NEC）で、豊田中央研究所にてシミュレーション分野のソフトウェア開発や実証実験を経験し、超大型コンピュータやAIを活用した自動車故障診断システム、自動車工場の自動化設計などをまた、NECのスーパーコンピュータSX-1から4号機までの開発に携わり、NASAでのアプリケーション導入支援を行った。さらに、NEC BIGLOBEの子会社オーララインの取締役として、ITマーケティングやIDC事業での経営手腕を発揮し、トヨタやNECなどとの幅広い人脈を持つ。

技術系執行役員

技術本部 執行役員 徳内 哲也

旧郵政省貯金局の資金運用システムの開発に10年以上にわたって従事するなど、IT業界でシステムエンジニア筋で活躍。個人事業主を経て、株式会社トリプルアイズ入社。2021年9月、執行役員就任。画像認識プラットフォーム・AIZEの開発部門を総括する技術職のリーダー。

技術本部 執行役員 畔柳 卓文

株式会社システムハウス、アイエヌジーなどでシステムエンジニアとして活躍。2016年、株式会社トリプルアイズ入社。2020年11月より執行役員。大手Sierによる大型開発案件に従事し、DXエンジニアのチームを牽引している。

技術本部 執行役員 片渕 博哉

画像認識プラットフォーム・AIZEのメインエンジニア。AIの研究開発から学習アーキテクトの構築をメインに、多種多様の企業案件やAIを使用した音楽配信レコメンドサービスの開発に従事。囲碁AIソフト開発マネージャや他社への講演活動も積極的に行っている。

技術本部 執行役員 日野 隆教

日立機電工業株式会社（現 株式会社日立製作所）でソフトウェアの研究開発に携わる。2001年、株式会社ジャストシステム入社。ソリューション開発部長、企画担当部長を歴任。ナレッジ商品開発、新商品企画を推進。2020年よりインテグレート株式会社でシステム開発部長を歴任。2022年8月、株式会社トリプルアイズ入社、執行役員就任。

技術本部 執行役員 辰本 貴通

人材・情報通信サービス事業等を手掛けるエス・エム・エスでWebエンジニアとして保守運用・新規開発を経験。エンターテインメントサイト等を手掛けるDMM.comの電子書籍事業でエンジニアリングマネージャーを務める。九州全域に展開するふくおかフィナンシャルグループのシニアマネージャーを務めた後、SmartHRのグループ企業にCTOとして就任。2025年6月2日、トリプルアイズに執行役員としてジョイン。

上級執行役員

井口 邦

近畿大学通信教育部卒業後、米コネチカット州Mitchell Collegeに留学。1996年7月ベスト産業株式会社（現B E X）入社、2002年10月株式会社B E X代表取締役就任。同社入社以来、営業、人事、財務等、経営全般に従事する。ベストテック株式会社代表取締役社長も兼任。

技術専門役員

松崎 憲介

技術本部 AIZE開発部所属。入社以前よりトリプルアイズと囲碁AIの共同開発に取り組む。AIにおけるグローバルな先端研究分野の論文をサーベイし、AIエンジンの機能向上を担っている。近年では、マスク装着時の認証精度の向上、AI顔認証が苦手とする若年層の認証精度の向上をリーディングする。画像認識、顔認証にとどまらずAI研究の多くの領域に精通するエキスパートである。

執行役員

営業本部 執行役員 小林 誠

外食産業店長を経て、医療系ホームページ制作・人材紹介会社を設立。2012年IT会社にて営業職を経験、2017年、株式会社トリプルアイズに営業として入社。

営業本部 執行役員 藤澤 由士

2003年株式会社ベンチャー・リンク入社。2009年株式会社アネックスライフ取締役営業本部長を経て、2015年株式会社シンプルプラン立ち上げに参画。2019年9月、株式会社トリプルアイズ入社。

管理本部 執行役員 近藤 一寛

神戸大学経済学部卒業。大手電機機器メーカーにおいて、10年以上にわたり財務経理、IR/SR業務に従事。複数の上場準備企業のマネージャーを経て、2022年4月、株式会社トリプルアイズ入社。

Marubeni



**Rakuten
Mobile**



LINE WORKS

brother
at your side



Sony Biz Networks Corporation

セグメント

サブセグメント

概要

AIソリューション
事業

AIインテグレーション

エンジニアリング

AIプロダクト

AI/システム開発

AI/システムの開発、AIに関するコンサルティング、業種別パッケージの導入等。

自動車設計

主に自動車メーカー向けの設計開発業務の役務提供。

AI搭載の自社サービス

顔認証AIや画像認識AIを搭載した自社サービス提供による月額利用料及びサービス提供に伴って生じるデバイスやカスタマイズ開発の売上等。

GPUサーバー
事業

プロダクト

GPUサーバー
データセンター

保守管理

独自開発したソフトウェアを搭載GPUマシン、モジュール型のデータセンターであるDINO、AI開発向けGPUサーバーの販売によるフロー売上。

上述のGPUマシン、モジュール型のデータセンターであるDINOの販売に伴って生じるマシン保守管理、データセンターの保守管理によるストック売上。

セグメント

サブセグメント
(事業会社)

AIソリューション
事業

AIインテグレーション
(株式会社トリプルアイズ)

エンジニアリング
(株式会社BEX)

AIプロダクト
(株式会社トリプルアイズ)

GPUサーバー
事業

プロダクト
(株式会社
ゼロフィールド)

GPUサーバー
データセンター

保守管理

AI/システム開発・コンサルティング役務提供

月額/案件単位での対価受領

自動車部品/ソフトウェアの設計開発役務提供

月額/案件単位での対価受領

自社AIサービスの提供

AIサービスの月額利用料受領

自社AIサービス導入時のハードウェア(物販)
/ソフトウェア追加開発(役務提供)

納品/案件単位での対価受領

GPU/ASICハードウェア(物販)
データセンターの計算力貸し出し

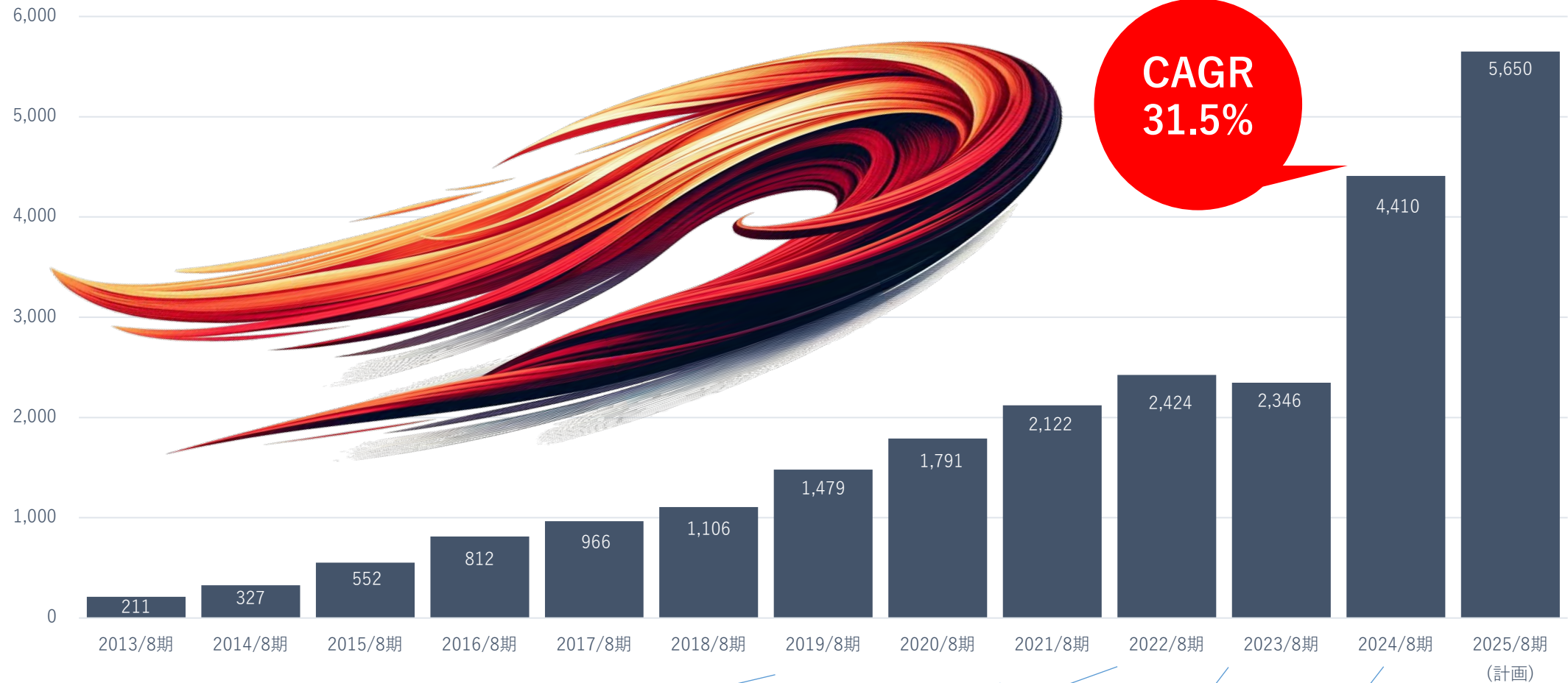
納品/案件単位での対価受領

ハードウェア保守サービス(役務提供)

保守サービスの月額利用料受領

顧客

(単位：百万円)

**CAGR
31.5%**

AIZEサービスローンチ

山田雄一郎社長就任

グロース市場上場

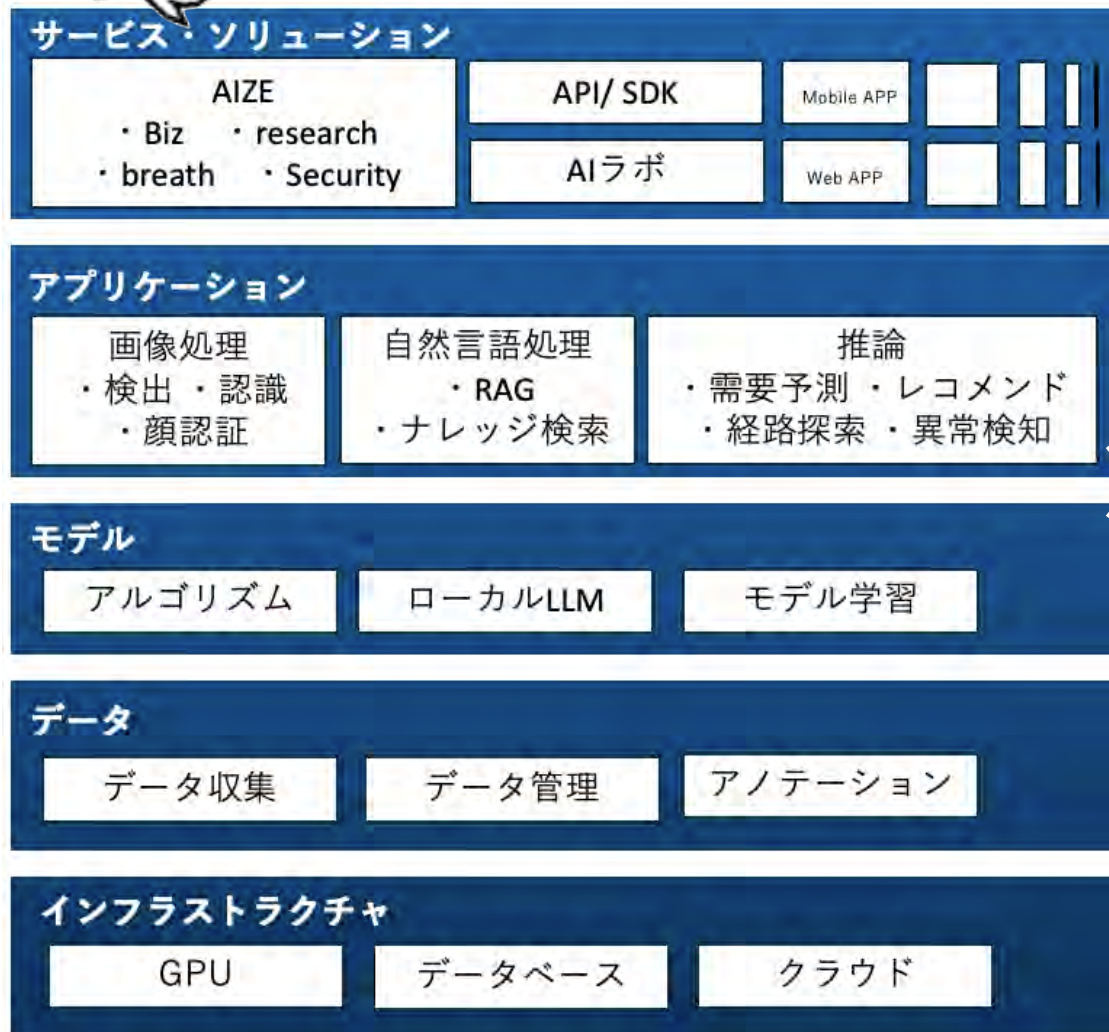
ゼロフィールドがグループイン

AIZE、10万IDを突破
BEXがグループイン

本社移転



AI プラットフォーム



AI実装を加速する基盤

トリプルアイズグループがもつ、先端テクノロジーの3つの力ですべての”現場”をトランスフォーメーションしていきます。

エンジニア



現場で培われた開発力、
設計力、実装力

GPUサーバ



計算資源であるGPUサーバを
データセンターとして保有

CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

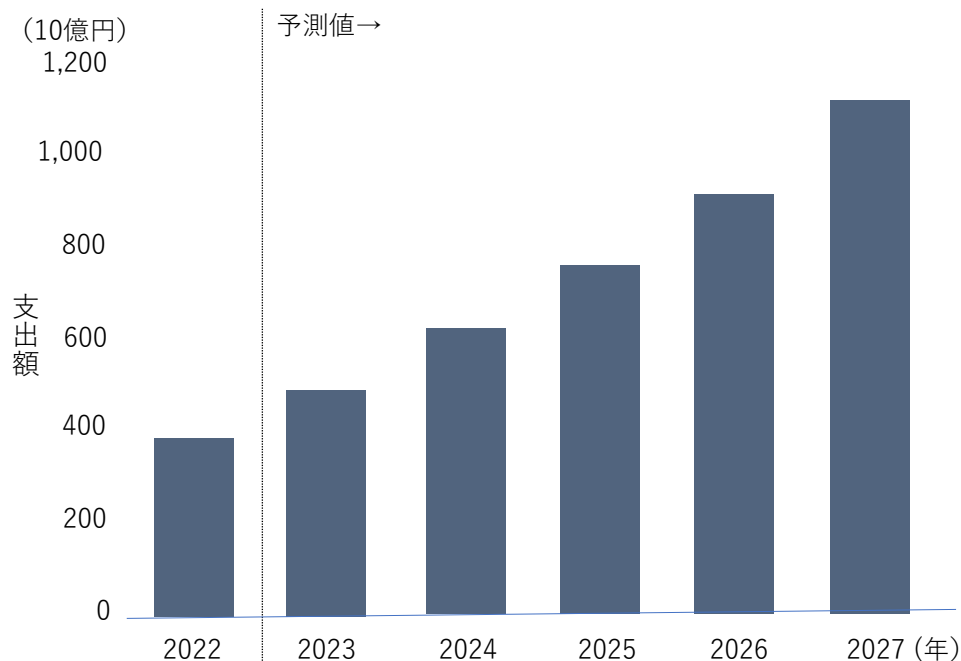
成長戦略

経営指標

Appendix

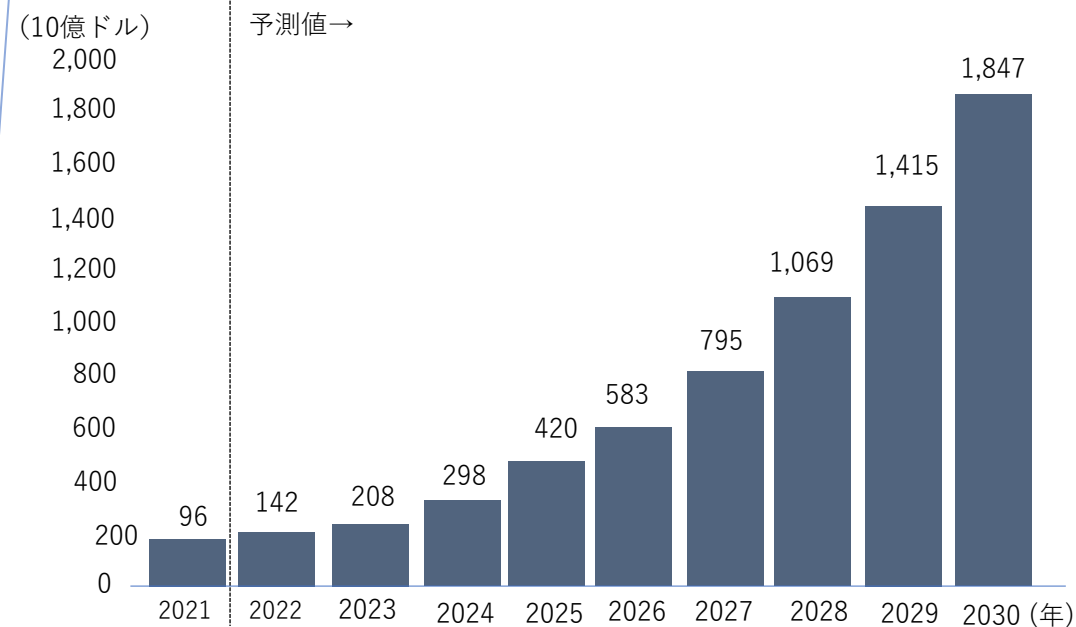
各種調査によると、世界のAI市場は生成AIのニーズに牽引されて2030年まで加速度的な伸びが見込まれています。国内AI市場も、2022年には前年比35.5%増の約3,884億円に達しており、2027年までには約1.1兆円へと拡大すると予測されており、継続的な成長が期待されると、総務省は「令和5年 情報通信に関する現状報告の概要」でAI市場規模の現状を分析しています。

国内AIシステムの市場規模（支出額）及び予測



出典：Statista (Next Move Strategy Consulting)

世界のAI市場規模（売上高）の推移及び予測



出典：IDC「2023年 国内AIシステム市場予測を発表」（2023年4月27日）

国産AI技術

トリプルアイズは自社開発AI「AIZE」やエッジAIを保有。対中リスク回避の中で「**日本発の信頼できるAIベンダー**」としての需要が増大。

エッジAIの需要拡大

通信コストや遅延・セキュリティを抑えるエッジAIは、**クラウド依存からの脱却手段**として注目。国産エッジAIを提供できる数少ない企業として優位。

国産GPU

AI開発において「国産データセンター」や「非中国製GPU」へのニーズが上昇。自社GPUサーバー整備は**対米中依存リスクの低減策としてアピール可能**。

サプライチェーン再構築

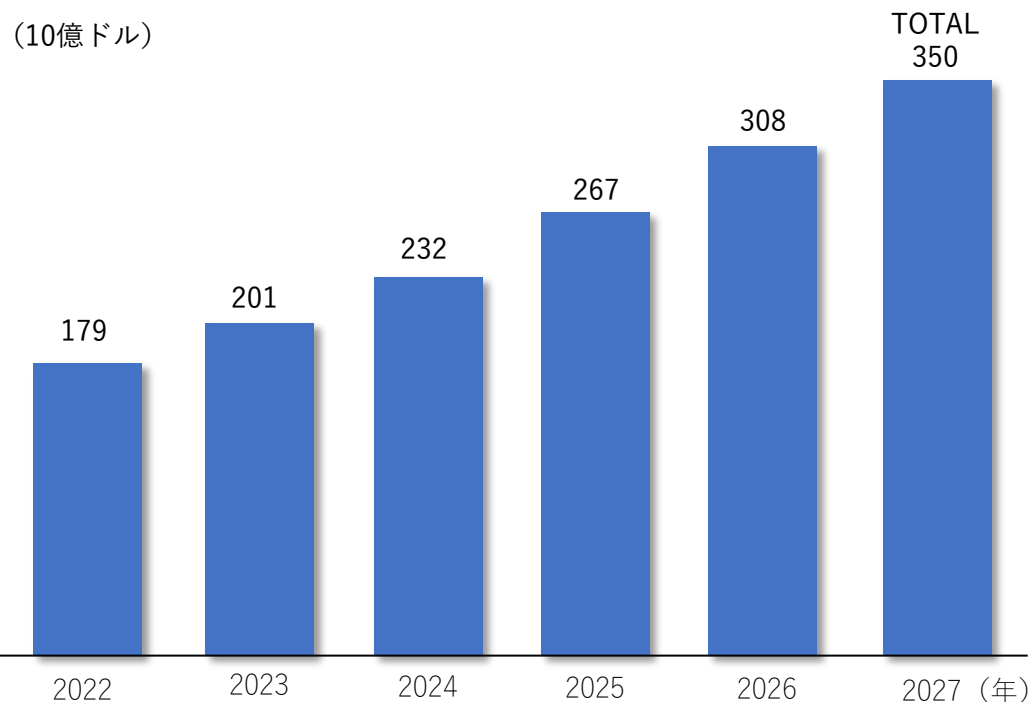
製造業や設計分野でのAI導入支援（例：BEXなど）は、**脱中国化する製造業のDXニーズと合致**。



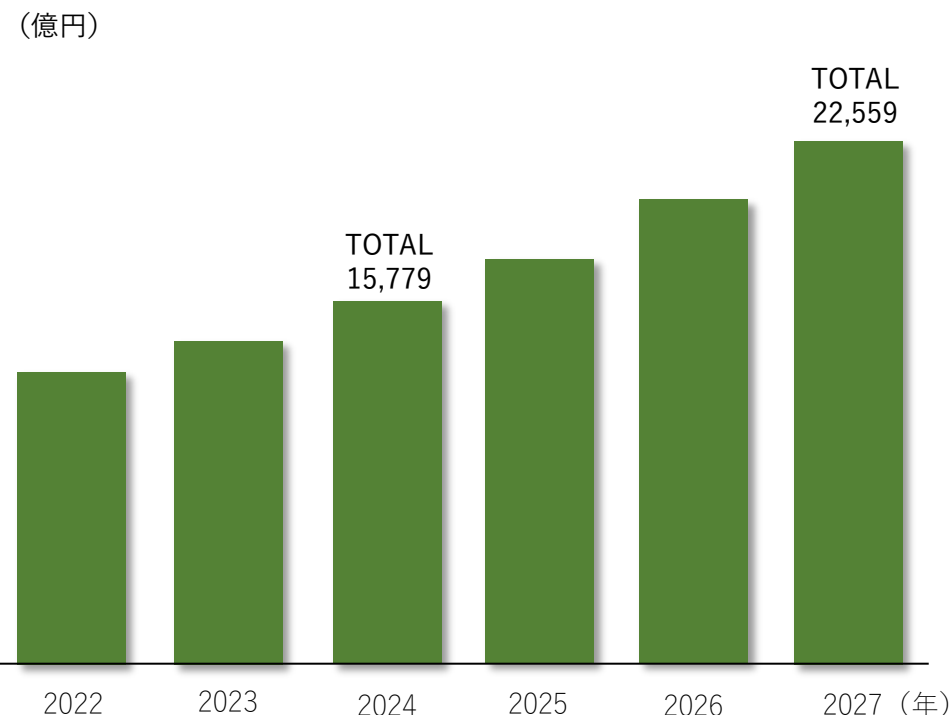
出展：https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA033560T00C25A7000000/

生成AIの成長はエッジAIに移行し、ユーザーに高速でパーソナライズされた体験を提供し、投資家にとって魅力的な機会をもたらします。エッジAIは、スマートフォンや自動運転車などのデバイスにAI機能を直接搭載し、リアルタイム翻訳やパーソナライズされたサービスを提供します。今後、エッジAIデバイスの普及が進むと、PCやスマートフォン市場が活性化し、新たな「キラーアプリ」の出現が期待されます。

世界のエッジコンピューティング市場規模（支出額）の推移及び予測



国内のエッジコンピューティング市場規模（支出額）の推移及び予測



CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

日本をのぞく世界の先端IT企業のほとんどが囲碁AIの研究開発に挑んでいます。囲碁AI 開発プロジェクトへの参画は、私たちのディープラーニングの大きな成果であり、AIエンジンの優秀性の証明となります。囲碁AIを通じたAIの研究は2014年から約10年に亘ります。



囲碁AIがもたらしたイノベーションは、AI史を塗り替え、世界を変えました。その原点には、私たちの挑戦しつづけてきた技術があります。囲碁AI開発まさにAI開発の王道です。王道を歩んできた私たちが、未来の扉をさらにおしあけます。

AIの未来を創ってきた、私たちのDNA

囲碁の局面変化 10^{360}

将棋の局面変化 10^{220}

全宇宙の粒子数 10^{80}

地球の海岸の砂粒数 10^{23}

日本総人口 10^8

囲碁の盤面は 19×19 の361マス。指し手の選択数は10の360乗と天文学的に複雑。技術力の差が勝敗に現れます。

囲碁AI世界大会成績推移

開催時期	順位
2019年4月	4位
2019年12月	2位 ^{*1}
2022年3月	6位 ^{*2}
2023年11月	1位 ^{*3}
2024年7月	1位 ^{*3}

*1：共同開発プロジェクト「GLOBIS-AQZ」での成績

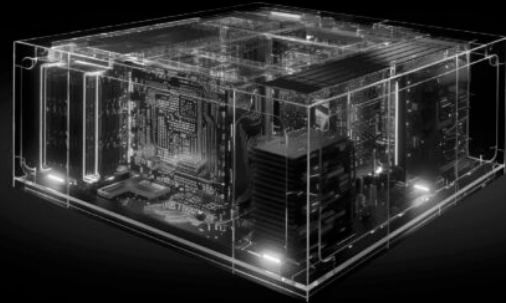
*2：2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会参加を見送っておりました。

*3：当社エンジニアの個人参加による成績です。

グループ会社であるゼロフィールドは、生成AI開発向けに特化した「GPU Server for AI」の提供を開始しました。AI用途に最適化されたサーバーを、豊富なGPU運用実績とデータセンター運営ノウハウを活かし、柔軟に設計・構築。オンプレミス需要やセキュリティ課題にも対応し、業務効率化や新規ビジネス創出を支援します。国内No.1のGPUマシン運用実績を背景に、AI開発の加速と多様なニーズに応える体制を強化しています。

最先端技術の活用を自分の手で

GPU Server for AI
GPU サーバーコンサルティング



AIソリューション検証から導入まで
GPUサーバーの運用を総合的にサポート

POWERED by ZEROFIELD

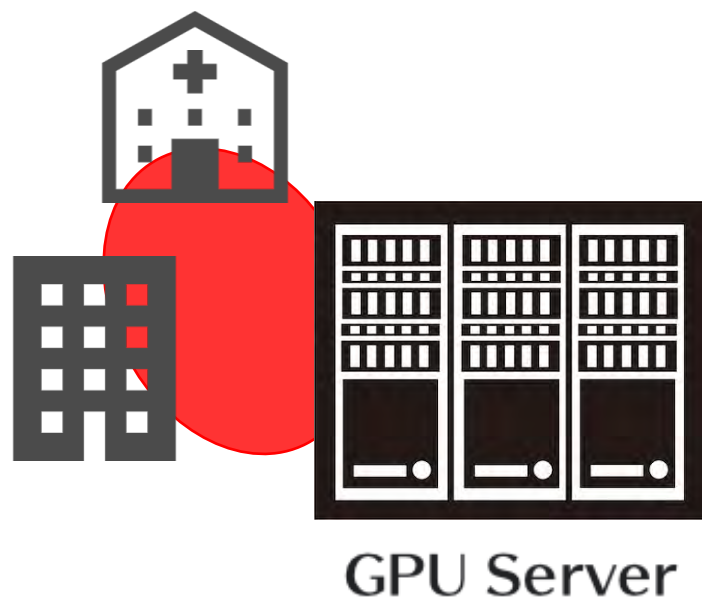
より柔軟な生成AI活用を実現

オンプレミスでは企業が自らの施設でサーバーを保有・管理し、データ保護やセキュリティを強化します。ハイブリッドサーバはオンプレミスのリソースとクラウドを組み合わせ、セキュリティと制御の利点に加え、クラウドの柔軟性とスケーラビリティを実現します。トリプルアイズ・グループは、ソフトウェアとハードウェアを手がけており、ユーザーニーズの高いこうしたシステムを提供できます。

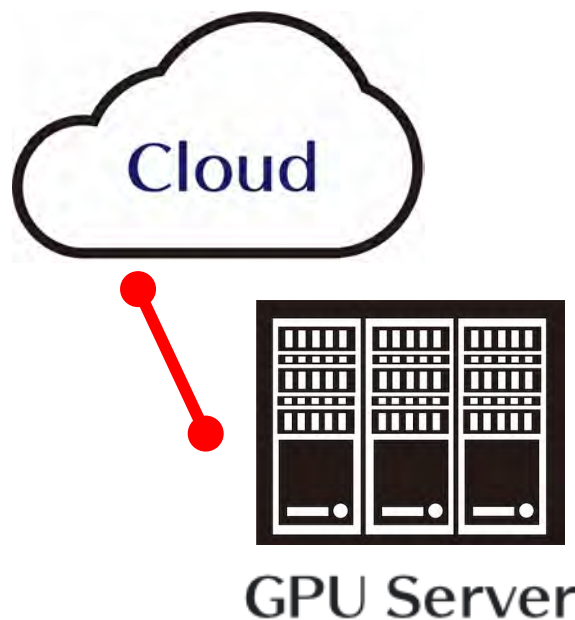
オンプレミス 【基幹系】

ハイブリッドクラウド

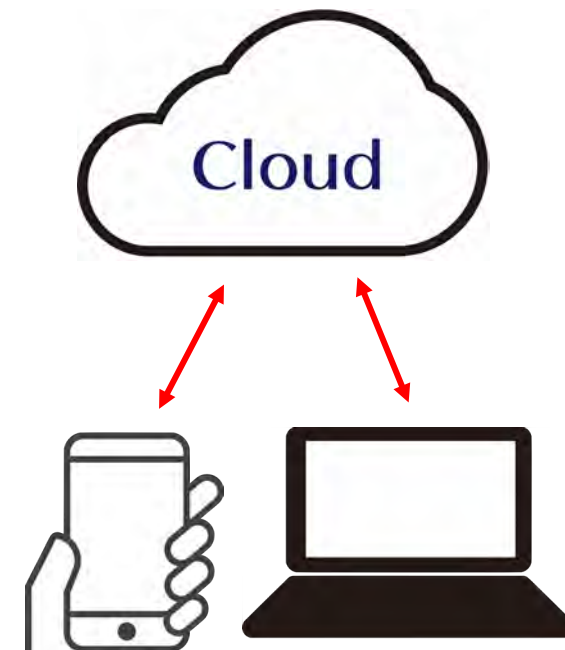
クラウド 【情報系】



顔認証AIで使用するデータをオンプレミスで処理するにはGPUサーバが最適となる
AIZEはSDKで提供する



機密情報を自社内で管理しながら、機動性ある情報処理はクラウドが担う



複数拠点での出退勤管理を一括管理するにはクラウドが最適である
AIZEほか、SaaSの活用

技 術

TECHNOLOGY

1980年の創業より45年。世界的自動車メーカーを設計力で支えるのが強み。同社エンジニアが関わった特許出願は100を超える

1980年創業
45年

特許出願に
関わった発明件数
100件超

CATIAライセンス
44台

人 材

PEOPLE

大手メーカーの自動車設計開発という魅力的な事業内容を背景とした安定した採用と優れた育成環境

安定した採用
優れた育成環境
エンジニア**178**名

システム開発
1994年
スタート

実 績

PERFORMANCE

技術力を信頼され、取引先の70%はトヨタグループから受注しており、同グループなどの設計分野でシェアが高い
*右は独立系設計会社としての順位

空調
トヨタ車体内
シェア **1** 位

ボデーシェル
トヨタ車体内
シェア **2** 位

小型EV
Lean Mobility内
シェア **1** 位

トヨタ自動車 i-ROAD開発にも参画



※写真は「トヨタグローバルニュースルーム」より転載

センターコンソール
小島プレス工業内
シェア **1** 位

シート
トヨタ紡織内
シェア **1** 位

TOYOTA コンセプトカー i-ROAD

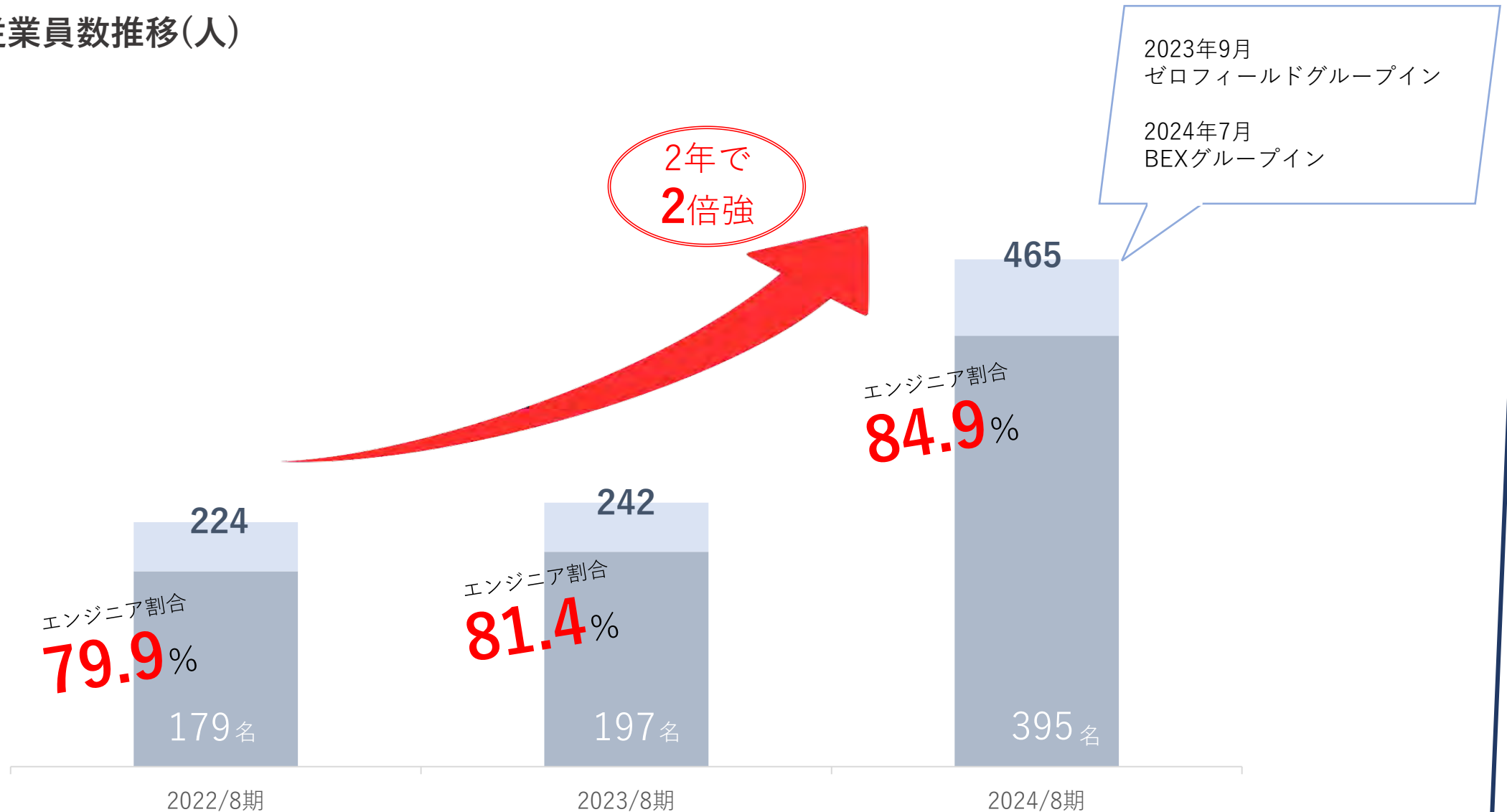
私たちの挑戦



BEXは創業以来、技術力を活かして様々なメーカーのサポートを行ってきました。
その実績の1つを、実際の現場で活躍したスタッフのメッセージを添えてご紹介します。

出典：BEX社コーポレートサイトより

連結従業員数推移(人)



AIインテグレーション
+
AIプロダクト

197名

AIプロフェッショナル/DXエンジニア

最先端AIの研究開発+顧客のDX支援を強力にサポート。第15回UEC杯コンピュータ囲碁大会(2023年11月)で1位となった囲碁AIの研究開発のネットワークを活用し優秀な人材を採用する他育成にも力を入れる。

世界大会

第1位

囲碁AI研究開発のネットワーク 高度AI人材採用

G検定 合格者 *1

総勢25名

ディープラーニングへの組織的理解

中級上級エンジニア

156名

アジャイル開発 スピード対応

エンジニアリング

175名

自動車設計エンジニア

大手自動車メーカーの設計開発において40年超の実績があり、特許出願に携わった件数は100件を超える。ハードウェアとソフトウェアの両軸で技術を高める自動車設計のプロフェッショナル集団。

大手自動車メーカーとの取引実績

40年超

確かな信頼の積み重ね

関与特許実績

100件超

関連技術の世界最先端

空調 トヨタ車体内

シート 豊田紡織内

シェア1位

シェア1位

GPU

8名

GPUエンジニア

各種高性能パソコンの設置からメンテナンス、運用に至るまでトータルでサポートできるハードウェアエンジニアとソフトウェアエンジニアを揃える。

販売累計台数 3,589台 全国シェア39%

3年連続全国1位

購入顧客数 486人 全国シェア62%

3年連続全国1位

自社データセンター
稼働顧客数 414人 全国シェア68%

3年連続全国1位

*1：一般社団法人日本ディープラーニング協会が主催する検定。
事業に活用できるAIの知識を検定試験する

CONTENTS

会社概要

市場環境

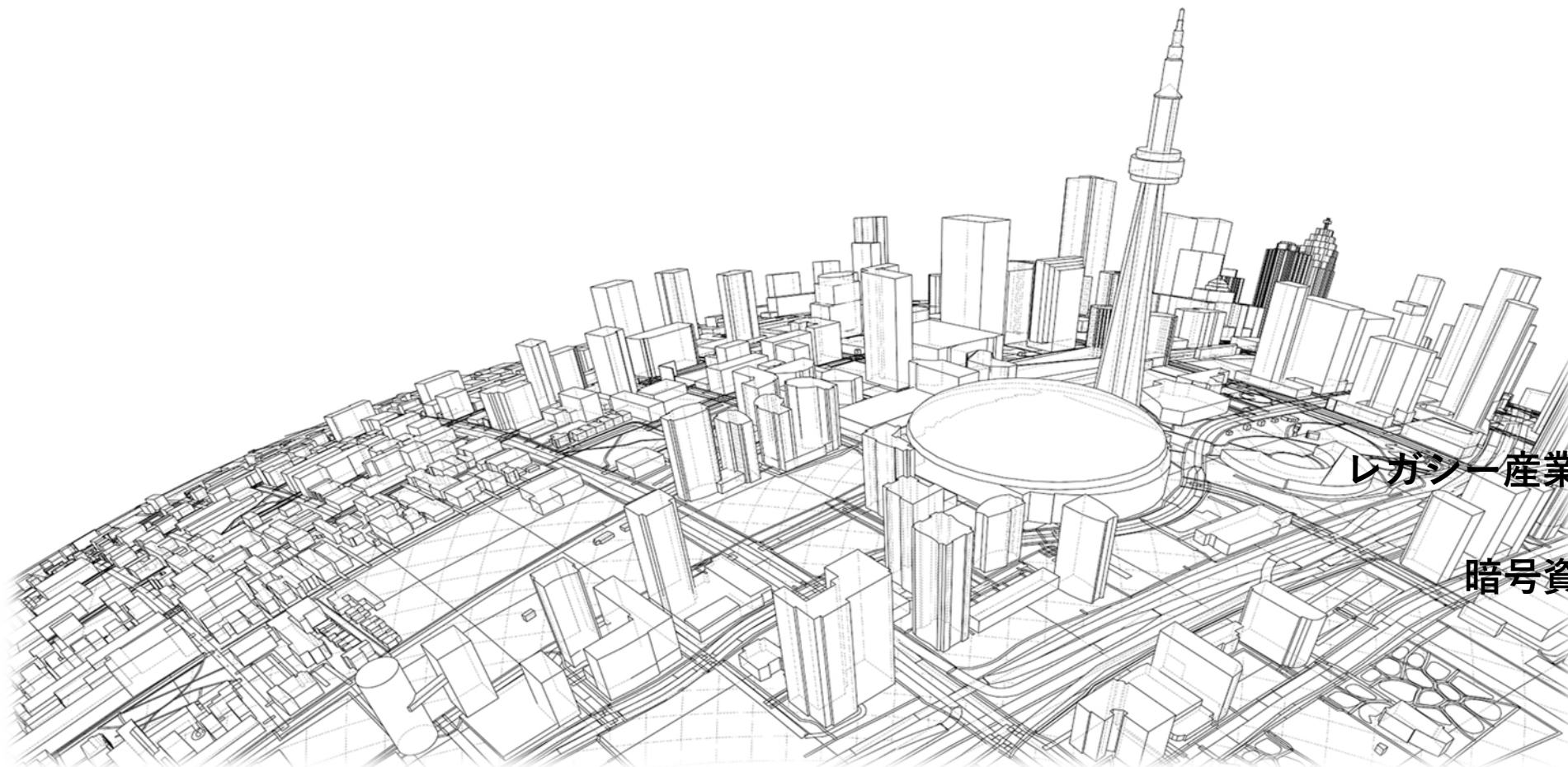
競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

トリプルアイズグループは、画像認識をはじめとするAI技術、GPU、ブロックチェーン、そして自動車設計という最先端技術の各領域の現場の最前線にいます。エンジニアは新たな市場と未来を切り拓いていきます。



生成AIの爆発的進化

顔認証サービスの実装

レガシー産業への国産エッジAIの提供

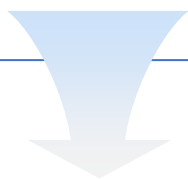
暗号資産トレジャリー事業支援

AI×M&Aの非連続成長

1

AIプラットフォーム展開

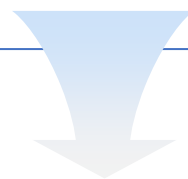
自社プロダクトでのMRR拡大
10万IDの運用実績



2

レガシー産業へのAI実装

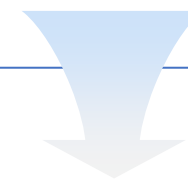
業界に深くリーチする
プレイヤーとのM&Aや資本提携
エッジAIプロダクトによる
AI需要の取り込み



3

GPUサーバー事業の推進

AI開発用途GPUサーバー、
データセンターの展開



さらに非連続成長の動きを進行中

同規模以上のM&A

暗号資産トレジャリー事業支援

AIプラットフォーム展開

- ・世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれた**10万IDの運用実績、自社AIプロダクトとしてはトップクラスの運用実績**（例：大規模自治体初の世田谷区非常勤勤怠管理システム採用から全国展開）
- ・当社AIプラットフォームと開発力を活かし、他社SaaSサービスと連携し、他社勤怠管理システムへバンドル提供、レベニューシェアで拡大（例：LINE WORKS、TeamSpirit、ASPIT等）
- ・**AI自社プロダクトは月額利用料(MRR)が高粗利で長期継続、拡大を目指す**
- ・AI自社プロダクトを全国の多様な業種に展開し、「AIラボ」の提供機会を創出する戦略とし、「AIラボ」を顧客と共同で取り組むことで、SI大型請負案件につなげる

レガシー産業へのAI実装

- ・ AIの導入余地が大きいレガシー産業にアプローチ
- ・ 自動車業界(設計、製造)については、**トヨタグループ各社との顧客網を築く株式会社BEXの知見を活かし、業種特化のAIプロダクト開発を目指す**
- ・ 遊技業界プリペイドカードシステム最大手のゲームカードジョイコホールディングス社との資本業務提携も実施し、**遊技業界のAIによるデジタル化を目指す**
- ・ 上記以外でも、**レガシー産業にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aと資本業務提携を皮切りに、当該産業へのAI実装を目指す**
- ・ イノテック社と共同開発した**製造業に強いエッジAIプロダクトによるAI需要の取り込み**

GPUサーバー事業の推進

- ・ 独自開発したソフトウェアを搭載した暗号資産マイニング用途及び**AI開発用途GPUサーバーマシン、モジュール型/コンテナ型のデータセンターの販売**
- ・ 大量電力消費時代における電力発電事業者や土地保有者との余剰電力等の活用推進
- ・ 電力料金の低くクリーンエネルギー活用可能な海外データセンターの拡張

同規模以上のM&Aを実施し、非連続成長を実現

Moreover

AIの周辺領域のM&Aによるソリューションの強化

独自開発のAI基盤が多業種に展開可能で、シナジーを創出

M&A時には創業者も増資で参画し、グループ一体で価値向上を推進

持続的かつ安定的な暗号資産事業を実現する

furthermore

暗号資産エコシステム全体の質的向上に貢献

国内外のマイニング基盤や技術的知見で信頼性の高い事業推進

電力コスト、環境対応、遠隔運用といった課題へのノウハウ提供

AIプラットフォーム展開

トリプルアイズのAIの技術力と知見を活かして構築した独自のAIプラットフォーム基盤をベースに、自社プロダクトの拡大、他社サービス連携、AI案件のフックから大型システム案件受注につなげる戦略を推進していきます。



AIプラットフォーム

サービス・ソリューション

AIZE

- ・ Biz
- ・ research
- ・ breath
- ・ Security

API/ SDK

Mobile APP

AIラボ

Web APP

アプリケーション

画像処理

- ・ 検出
- ・ 認識
- ・ 顔認証

自然言語処理

- ・ RAG
- ・ ナレッジ検索

推論

- ・ 需要予測
- ・ レコメンド
- ・ 経路探索
- ・ 異常検知

モデル

アルゴリズム

ローカルLLM

モデル学習

データ

データ収集

データ管理

アノテーション

インフラストラクチャ

GPU

データベース

クラウド

AIエンジンの世界的実績を持つ自社プロダクト

世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれ自社プロダクトの提供によって**10万IDの運用実績**をもつAIエンジン

他社サービス連携

API、SDKでの他社SaaSサービスとの連携し、レベニューシェアで拡大、**AI自社プロダクトは月額利用料が高粗利**で長期継続

AIフックから大型化

AIラボサービス（事例頁参照）及びオーダーメイド**AI開発リード顧客からの大型システム開発受注**、基幹システム開発受注

自治体



小売・流通



銀座メガネコンタクト

総合商社

Marubeni

金融



鉄道



物流



電気機器



食品卸



医療・医薬品



情報通信



Sony Biz Networks Corporation



CUBE SYSTEM

建設ICT



株式会社 シーティーエス

建設・機械



情報機器・通信機器



当社は、AI自社プロダクトを全国40都道府県に展開し、ゼロフィールド社は福井、熊本、新潟、多摩川にデータセンター拠点を有し、BEX社は豊田市で自動車設計を実施し、東京とグループ各社とその拠点と連携しつつ、全国展開を推進しています。



特別地方公共団体

勤務時間の適切な把握方法と管理
業務の効率化を模索

画像認識プラットフォーム

AIZE

顔認証サービスの提供に加え数多くのシステム
開発に実績を持ち、個人情報保護にも注力

世田谷区

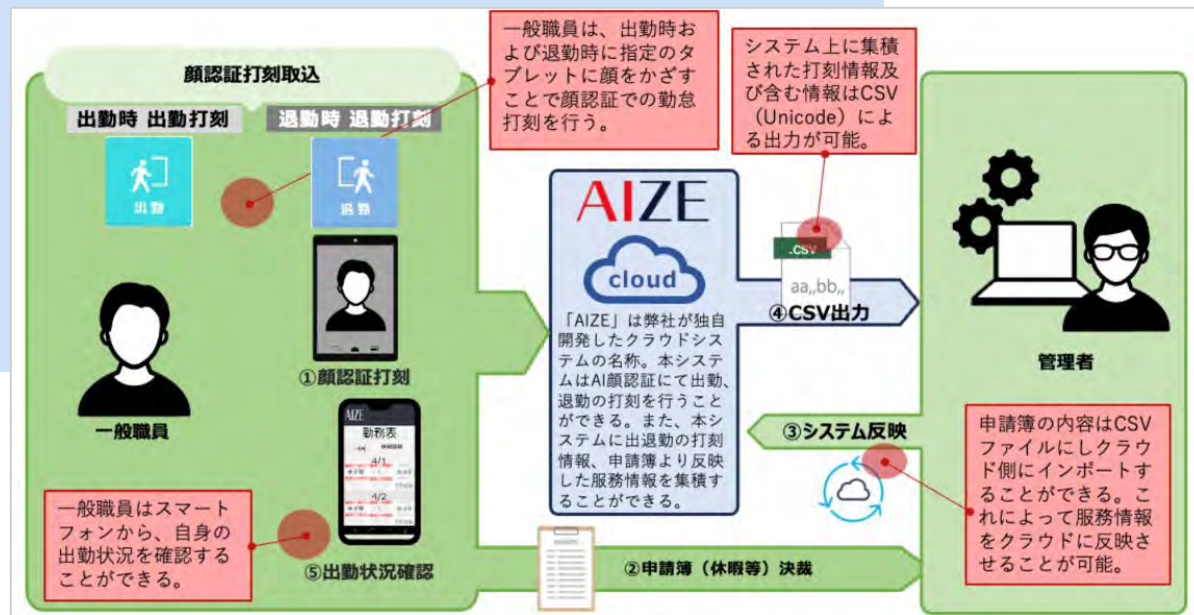
顔認証システムを通じて勤怠管理の効率性向上

世田谷区の世田谷区の会計年度任用職員の出退勤管理

導入拠点：500カ所（本庁舎、保育園、学校、図書館） 対象職員数：約5000～5400人/年間

*延べ任用人数は約6400人を予定

- 顔認証端末にはタブレットを使用
- 長期安定運用とコスト効率を考慮
- クラウド上のAIZEと連携
- 有給休暇を含めた勤怠と休暇情報の
可視化UIを構築
- より効率的な勤怠管理を実現

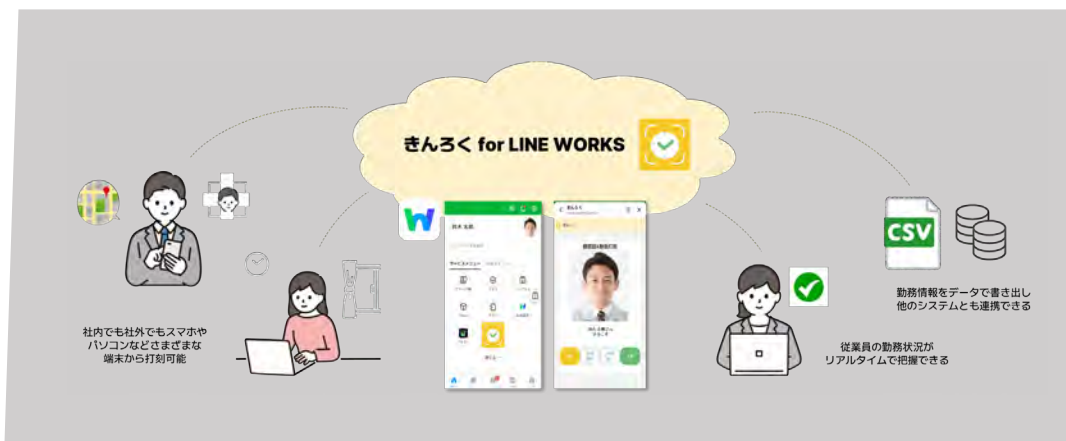
「ジチタイワークス」に
世田谷区の事例が掲載

2025年6月には、AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」をリリースし、LINE WORKSの管理画面から即時利用可能となりました。ダイワボウ情報システムおよびSB C&Sを販売パートナーに迎え、普及拡大が期待されます。また、「LINE WORKS Partner Award 2025」を受賞し、両社の関係が一層深まっています。



ダイワボウ情報システム株式会社

2025年6月20日
AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス
「きんろく for LINE WORKS」スタート
LINE WORKSの管理画面から即座に利用可能に



「LINE WORKS Partner Award 2025」にて
「The Best Collaboration」を受賞



「アルろく for LINEWORKS」を提供し業務効率化や法令遵守を支援。これらの協業が高く評価されました。

事業の概要

既に多数のユーザーが使用するITシステムとの共同開発で、「画像認識プラットフォームAIZE」のAI機能を搭載いただくことで**既存システムに付加価値を提供し、ユーザー数の増加**によってリカーリングレベニューを拡大させます。

実際の事業展開例および今後の成長可能性

既存ITシステム

LINE WORKS

導入 43万社、450万ユーザー（2024年6月）

AI機能

+ **AIZE Breath**

共同開発サービス

 **アルろく**
for LINE WORKS

【市場規模とターゲット】

義務化対象ドライバー：約**869**万人
LINE WORKSユーザーとの高い親和性
：**50**万社・**500**万人

【アルコール検知器の導入状況】

導入準備開始企業：**58**%
未着手企業：**21**%
潜在顧客の課題：チェックの実施率の低さ

【顔認証AIのニーズ】

スマホで簡単に管理可能なツールを求める潜在顧客数*試算
：869万人 **×** 83%（未導入率と実施率から算出） = **724**万人

【ポテンシャル】

潜在需要：約**83**万ユーザー
年間収益インパクト：約**14**億円

【差別化ポイント】

LINE WORKS内アプリでアルコール検知できるのは当社のみ

画像認識プラットフォーム「AIZE」を多業種に展開し、リード創出を強化。「AIラボ」で顧客と共創し検証を推進、AIシステムの開発、既存システムインテグレーションといった大型案件獲得へつなげ、顧客のLTVを向上させる戦略です。

AI Lab

企業課題&ニーズ



AIの基礎知識を高めたい

AIラボなら…

ジェネラリストからスペシャリストまで対応

課題解決方法を相談したい



AIラボなら…

要件定義から設計まで対応



開発リソースや環境が欲しい

AIラボなら…

環境構築から実証実験・実装まで対応

ビジネス推進チーム

ステークホルダー
DX推進
システム担当者 など



AIラボリーダー



課題に合う
最適なエンジニアリソース



顧客企業

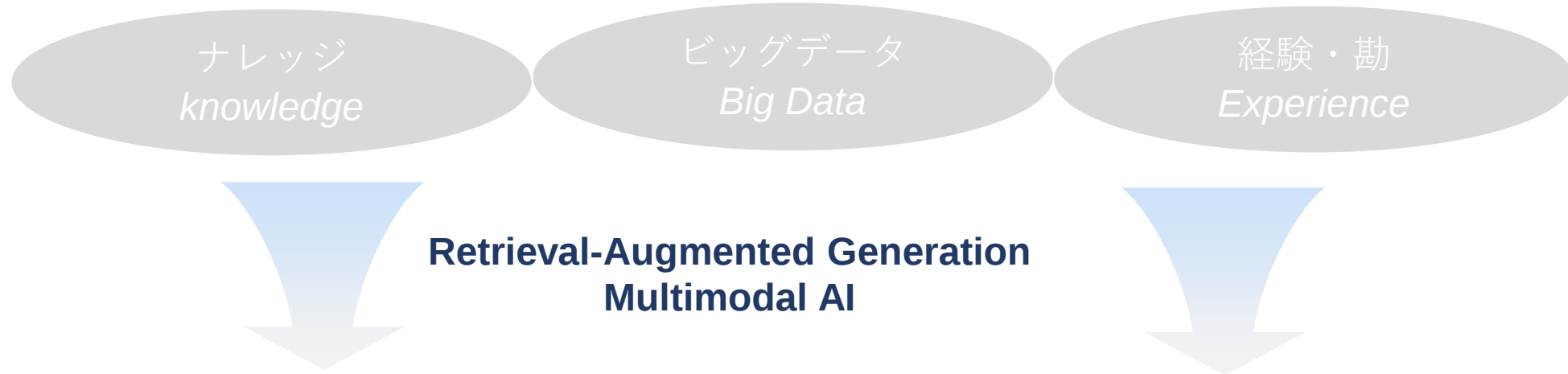
トリプルアイズ AI Lab

「AIラボ」は、DXの最新情報サーベイ、AI論文サーベイ、案件実績が集約されたエンジニアチームを顧客のビジネス、サービスに活用します。

レガシー産業へのAI実装

レガシー産業という課題解決が困難な大規模市場においてサービス提供を開始しています。AIの社会実装を進めるべく、レガシー産業のプレイヤーと組み、共同商品開発、営業連携による事業展開を進めていきます。

レガシー産業へのAI実装戦略



SI（システムインテグレーション） + AI ラボ

自社プロダクト + エッジAI

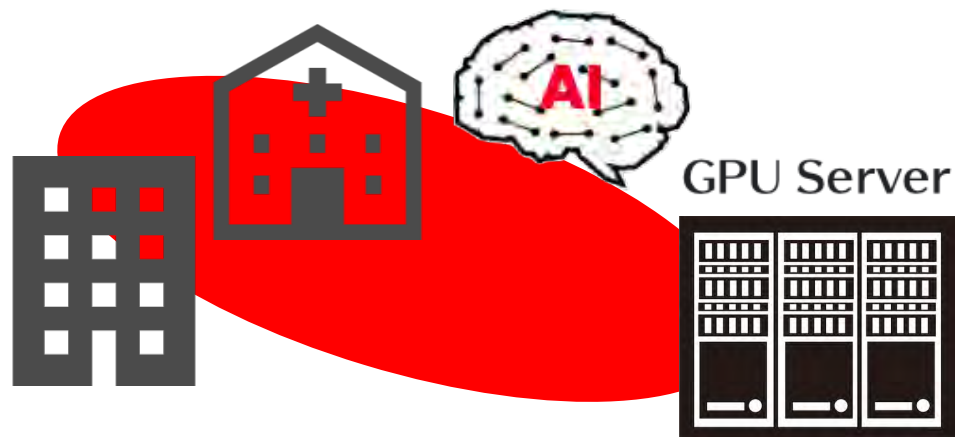
AIの導入余地が大きいレガシー産業にアプローチ

自動車業界(設計、製造)については、株式会社BEXの知見を活用し、業種特化のAIプロダクト開発を目指す

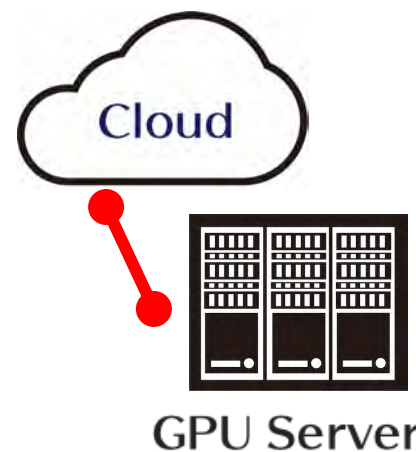
製造業に強いエッジAIは共同開発にてサービス開始

M&Aや資本業務提携を皮切りに、当該産業へのAI実装を目指す

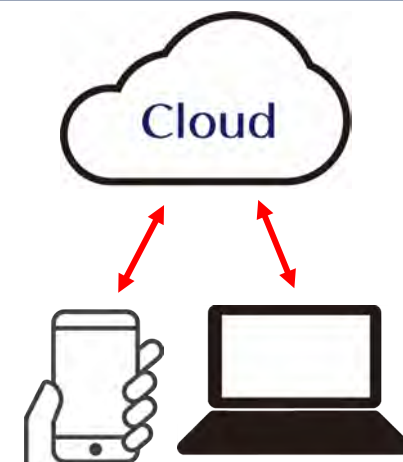
エッジAI【基幹系】



ハイブリッドクラウド



クラウド【情報系】



業務・業種別AI搭載GPUサーバー

生成AIを活用したオンプレミスAIシステムを提供。
特定業種・業務向けに最適化し、データ管理やセキュリティを強化します。

【主な用途例】

- ・ 製品設計支援AI搭載GPUサーバー
- ・ セキュアなデータ管理
- ・ 製造業や設計業務など、業種ごとのニーズに対応

エッジAI事例：AIZE搭載「Edge FACE」

国産AIとハードを組み合わせたエッジ顔認証は、高セキュリティ・即時認証・ネットワーク非依存が特長。工場やオフィスの入退管理、装置操作認証、無人受付など、機密性やリアルタイム性が求められる現場で活用されています。



BEXのグループインを契機に自動車設計業務分野におけるAI社会実装を共同で進めております。人間による作業やチェックが多い自動車設計業務において、自動化・効率化のためのAIソフトウェアを共同で開発し、これを自動車設計業界内に展開していきます。また、遊技場向けプリペイドカードシステムのリーディングカンパニーであるゲームカードジョイコホールディングスとの資本業務提携を通じて、AIを用いた業界のデジタル化を目指します。

AIによる業務**支援**

業務フローの標準化
ルーチンタスクの自動化
プロジェクト管理のサポート
データの解析/市場分析

AIによる業務**代替**

ナレッジデータ学習による専門タスクのAI化
要件定義の自動生成
マーケティングレポートの自動生成

AIによる業務**拡張**

新製品・新サービスの企画立案
新製品・新サービスの開発支援
生産工程のDX化（AIと熟練者の協働）

<例:ゲームカードジョイコ社とのプロジェクトスケジュール> [2024年9月]

[2026年3月]

[~2027年8月]

Phase 1

システムリプレイス
・リファクタリング

レガシー技術/プログラムの刷新

開発プロセス標準化

システム試験業務の改善

インフラ、基幹システム更改

Phase 2

AIを用いた
遊技業界のDX

AI活用領域

顧客動向や売上など、各種データ分析

デジタル端末による新しい顧客体験の提供

イベント・プロモーション戦略

GPUサーバー事業の推進

AI向けGPUサーバーの需要が高まる中、ゼロフィールドは「GPU Server for AI」としてAIを活用する事業者向けに、最適なサーバーソリューションを展開しています。自社データセンター運営の経験を生かし、カスタマイズや運用サポートを強化。生成AIや大規模言語モデル、3Dシミュレーションなどの用途に応じたインフラ環境の提案が可能です。高性能なGPUと柔軟なサーバー運用で、AI開発の加速に貢献します。

AIのインフラとなるGPUサーバー



事業者向け生成AI用GPUサーバー
【NVIDIA H200を最大8GPU搭載可能 Supermicro社製】



AI開発者向けワークステーション
【最大4GPU搭載可能 デスクトップからラックマウントまで】

AIシステムやAI開発のパートナーとして

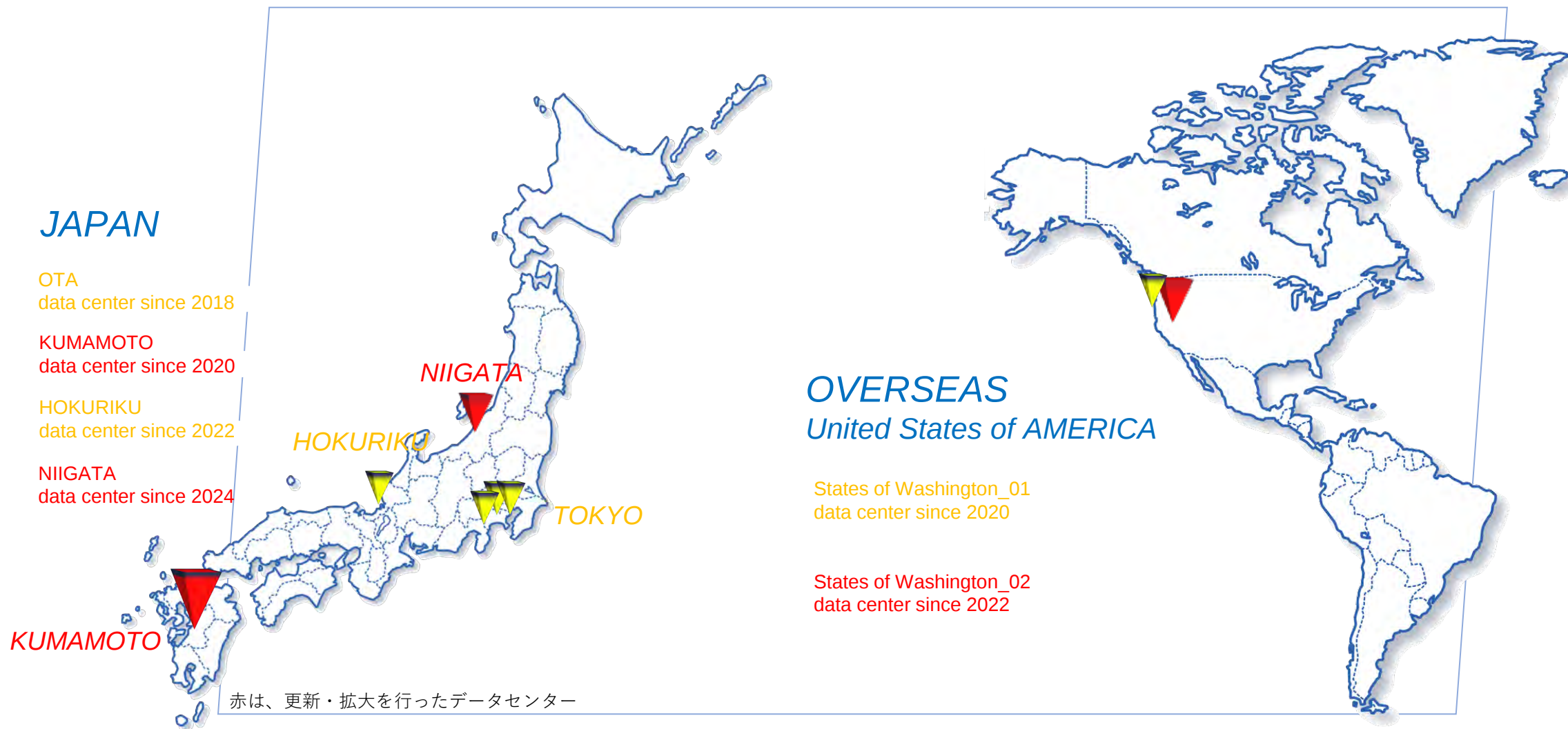


GPUサーバーの導入を広げるべく、AI活用の推進とAI開発事業者との提携を進めています。一般社団法人生成AI活用普及協会(GUGA)にシニアパートナーとして加入しました。AIサービス事業者や、AI開発事業者やAI導入支援事業者との連携を進め、AIインフラの提供を広げます。

生成AIの利用拡大に伴いニーズが増えているエッジデータセンターとして、当社開発のコンテナ型データセンターとともにGPUサーバーの提案も行う。AI開発からGPUサーバーの運用、データセンターの構築までトータルサポートが特徴。



今後の売上拡大を視野に国内外のデータセンターにおいて追加の設備投資や設置上限台数の引き上げを行っていきます。2024年5月には新潟県に新データセンターを開設しました。今後の販売計画に合わせ、国内外で追加のデータセンターの開設やデータセンター事業者との業務提携、データセンター拡張による設置可能台数の拡大など、複数の対応を行っていきます。



2018年から国内外で合計6拠点のデータセンターを展開するゼロフィールドでは、2022年に開設した独自開発のモジュール型データセンターに加え、2024年にはコンテナ型データセンター『DINO Rex』を開発。DINO Rexは、顧客ニーズに合わせてカスタマイズすることができるため、国内No.1を獲得している暗号資産マイニングでの活用はもちろんのこと、生成AI用にエッジデータセンターとして活用することもできます。短期間に設置できるため、安価な電力の新たな活用方法として販売を広げています。

コンテナ型データセンターによる 余剰電力活用の提案

コンテナ型データセンターとは、エッジでのサーバー稼働に最適化された設備を備えた可搬型の省スペース施設です。



コンテナ型、モジュール型 データセンターの独自開発



コンテナ型データセンター
【ニーズに合わせてフレキシブル
にカスタマイズ可能】



モジュール型データセンター
【福井大学との共同開発の排気システム搭載】

M&Aによる非連続成長の実現

大型M&Aの実施

- ・ 同規模以上の大型M&Aの実施
- ・ ターゲットはEBITDA倍率4倍～5倍前後

AIソリューション事業を基盤としたシナジー

- ・ エンジニアが活躍する楽しいと思える領域、AI周辺事業領域のM&A
- ・ 独自開発AIの共有によるシナジー創出

自由度の高い資本政策

- ・ グループインした役員を中心に有償SOを付与するなどインセンティブを過去実施

当社グループへの資本参画によるベクトル合わせ

- ・ M&Aと同時にファウンダーに当社グループの第三者割当増資を実施、当社グループ価値向上を当社とともに目指す

大型M&Aと
IFRS導入

- ・ゼロフィールドは25年8月期が売上高10.5億、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益1.0億と通期でのれん償却1.1億を下回るが、暗号資産という新分野の開拓による貢献が大きい。
- ・BEXはのれんの総額は2.5億円(PPA認識後年間償却約19M)であり、また、人員減が想定以上に推移し、当期3Q以降は利益水準が低下するものの、通期では売上17億、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益77Mで着地予定であり、グループ業績に寄与。3Q以降の利益水準が来期は継続し、今後は成長していく予定。
- ・DX推進、連結経理、グループ通算制度など業務及び税務効率化についても推進
- ・**のれん償却負担軽減及び積極的なM&A推進のため、IFRS導入準備を推進中**

エクイティ調達、
財務体質の改善

BEXファウンダーからのエクイティ調達、24年10月に完了したゲームカードジョイコホールディングスへの第三者割当増資実施等により、**純資産額は16億以上に増加し、大きく財務体質を改善**

M&A、
資本業務提携による
AI社会実装の加速

- ・**ゲームカードジョイコホールディングスとの取引は、資本業務提携前より開始し、当期売上は1.6億を計上予定で、順調に増加。**今後は遊技業界のAIを用いたデジタル化など当社AI技術を利用した独自のプロダクト開発に共同開発中。
- ・**BEXと着手している自動車設計の業務効率化AIの共同開発においては、複数の設計効率化ソフトを試作開発中。**
- ・ゼロフィールドとトリプルアイズがオフィスを同居し、エンジニア交流が一層進む形としAI×GPUの研究開発を推進。**ゼロフィールドは暗号資産など最先端分野の開拓**
- ・これらの活動が当社のAI社会実装を加速させる

国内の動向

暗号資産の「20%分離課税」導入議論：日本では暗号資産の利益は雑所得として総合課税（最大55%）の対象だが、株式やFXのように「20%分離課税」へ移行する議論が進行中。この分離課税が実現すれば、個人投資家の税負担が大幅に軽減され、暗号資産市場の活性化や健全な投資環境の整備につながると期待される

暗号通貨の大きな意義

AI×暗号資産のシナジー：生成AI時代、AI技術と暗号資産の融合でグローバルな価値交換が拡大。データセンターの余剰リソースをマイニング等に活用し、効率的な運用を実現

分散型ネットワーク構築：トークン活用で分散型AIインフラの構築や新たな経済圏が創出されうる

暗号資産トレジャリー事業

暗号資産トレジャリー事業は、企業が自社の余剰資金や資本を活用しビットコインなどの**暗号資産を戦略的に取得・保有、財務資産や経営資源として運用する事業**。三菱商事やローソンが運営する「Ponta」が、ポイントと連携した暗号資産取引サービスを2025年内に開始予定で企業の新たな資産運用手法として注目されている



<https://toyokeizai.net/articles/-/886943>
<https://forbesjapan.com/articles/detail/80012>

高性能PCとワンストップソリューションを提供するゼロフィールドは、技術力が評価されマイニング業界で4年連続3冠を達成。豊富なマイニング実績、独自の運用技術、電力コスト最適化、パートナー企業への包括支援体制を強みとし、暗号資産トレジャリー事業において信頼性と成長性を両立しています。

5つの支援内容

①マイニング拠点の選定・構築支援

企業のニーズや電力特性を踏まえ、最適なマイニング拠点の選定から設計・構築まで一貫してサポート

②機器選定・導入・運用支援

最新のマイニング機器の選定から導入、稼働後の運用まで、専門ノウハウによるトータル支援を提供

③電力コスト最適化とESG対応を含む持続可能性設計

電力コスト削減とともに、環境・社会・ガバナンス（ESG）に配慮した持続可能な運用体制を構築

④暗号資産市場の動向や技術トレンドの情報提供

市場や技術の最新動向をタイムリーに提供し、企業の意思決定をサポート

⑤NFTやブロックチェーン活用に向けた技術支援

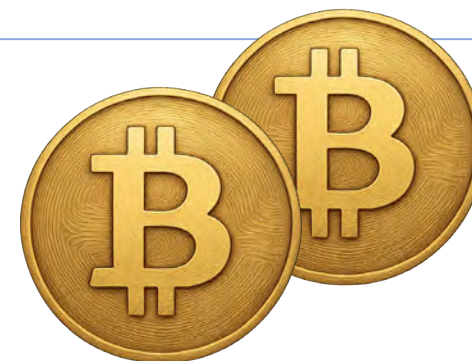
今後のNFTやブロックチェーン事業展開を見据えた技術的なアドバイスや導入支援も実施



ゼロフィールド社は、暗号資産マイニング分野で独自の強みを持つ企業です。高い収益性と手間のかからない運用を両立し、初心者から経験者まで幅広い投資家に選ばれています。2年間の運用管理費無料や自動スイッチングシステム、専任スタッフによるサポートなど、安心してマイニング投資を始められる環境を提供しています。

暗号資産マイニング事業の実績

- 国内外6拠点のマイニングファーム構築実績を持ち、幅広い運用ノウハウを蓄積
- 東京本社から国内外データセンターを一括管理し、高い稼働率と安定した運用を実現
- 累計導入台数・運用台数は業界トップクラスで、多数の顧客に選ばれている
- 2年間の運用管理費（電気代含む）無料サービスなど、コスト競争力のあるプランを提供
- 独自の自動スイッチングシステムにより、常に最適な通貨で高収益を目指す運用が可能
- スマホアプリによるリアルタイム管理で、初心者から経験者まで手軽に運用状況を把握できる
- 専任スタッフによるサポート体制が整っており、導入から運用まで一貫して安心
- 短期償却など投資メリットも豊富で、法人・個人問わず導入実績多数



技術力でマイニング業界を牽引

国内マイニング事業3部門 4年連続全国No.1を獲得



■ゼロフィールド ■A社 ■B社 ■C社 ■D社 東京商工リサーチ調べ 調査実施期間：2024年11月～2025年3月

CONTENTS

会社概要

市場環境

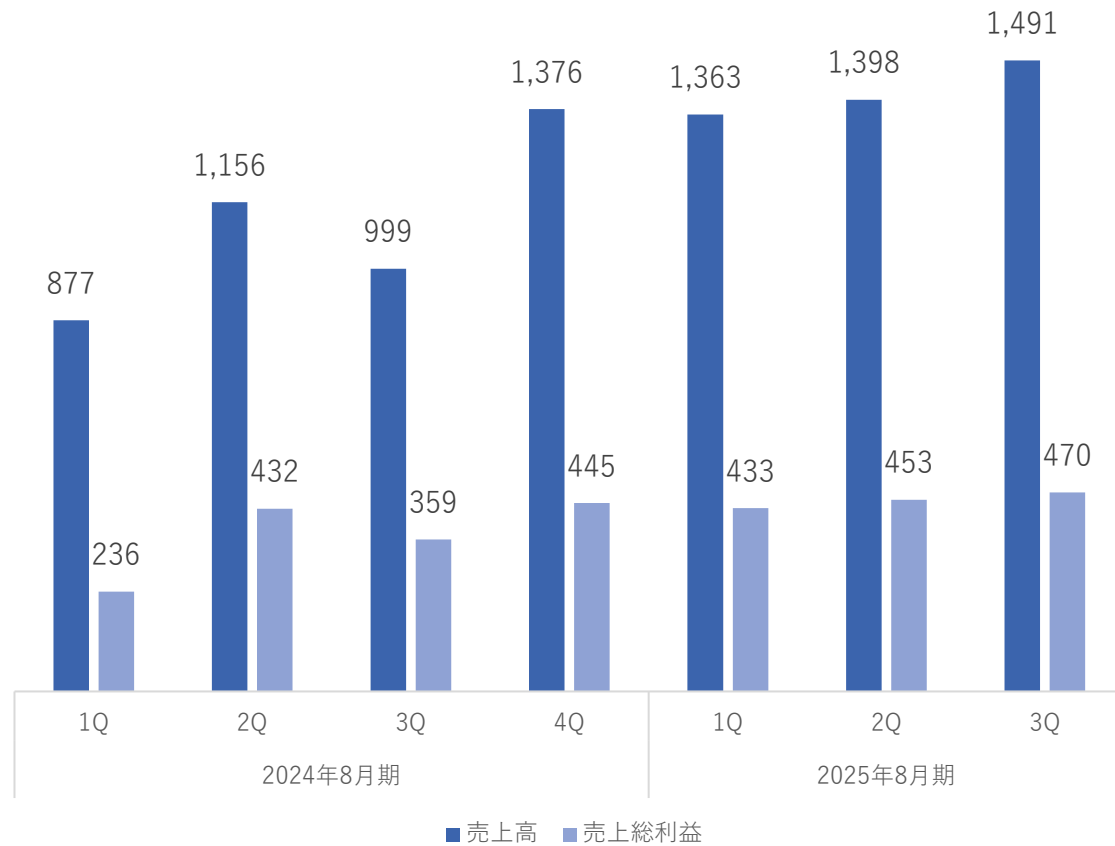
競争優位性

成長戦略

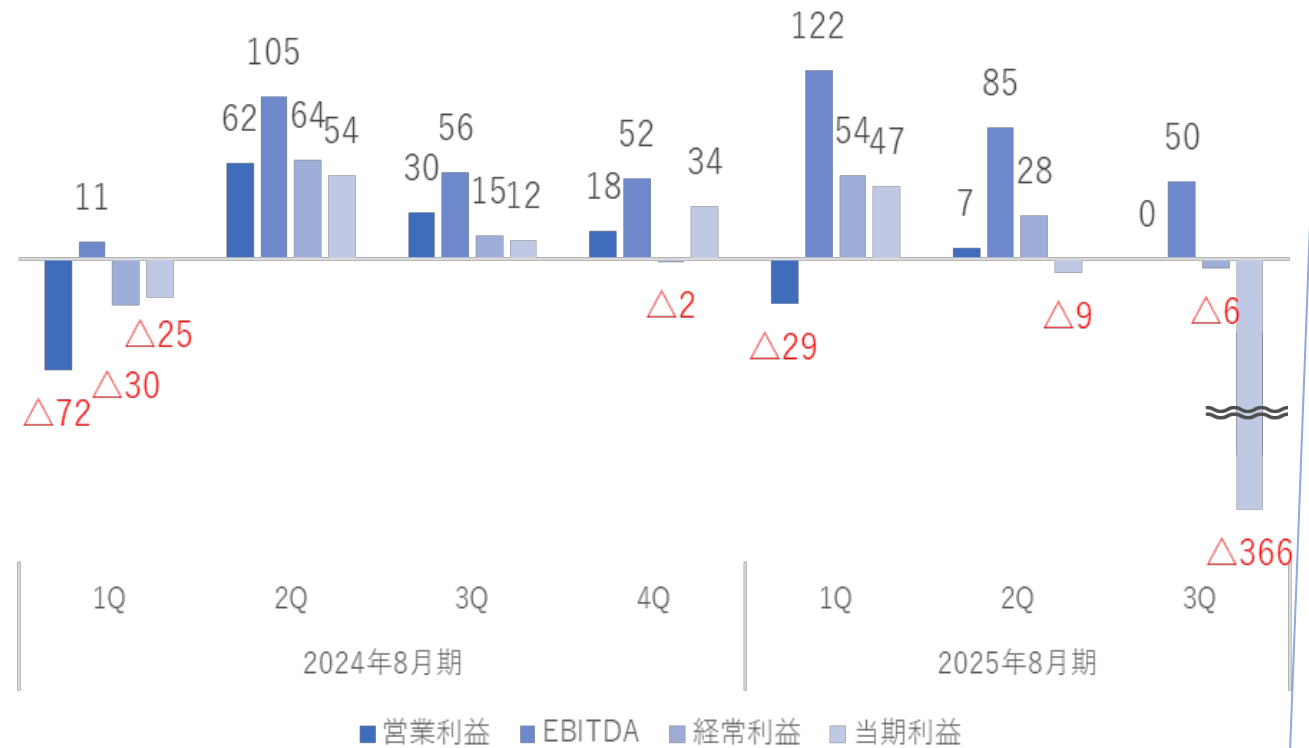
経営指標

Appendix

連結売上高/売上総利益推移 (単位：百万円)

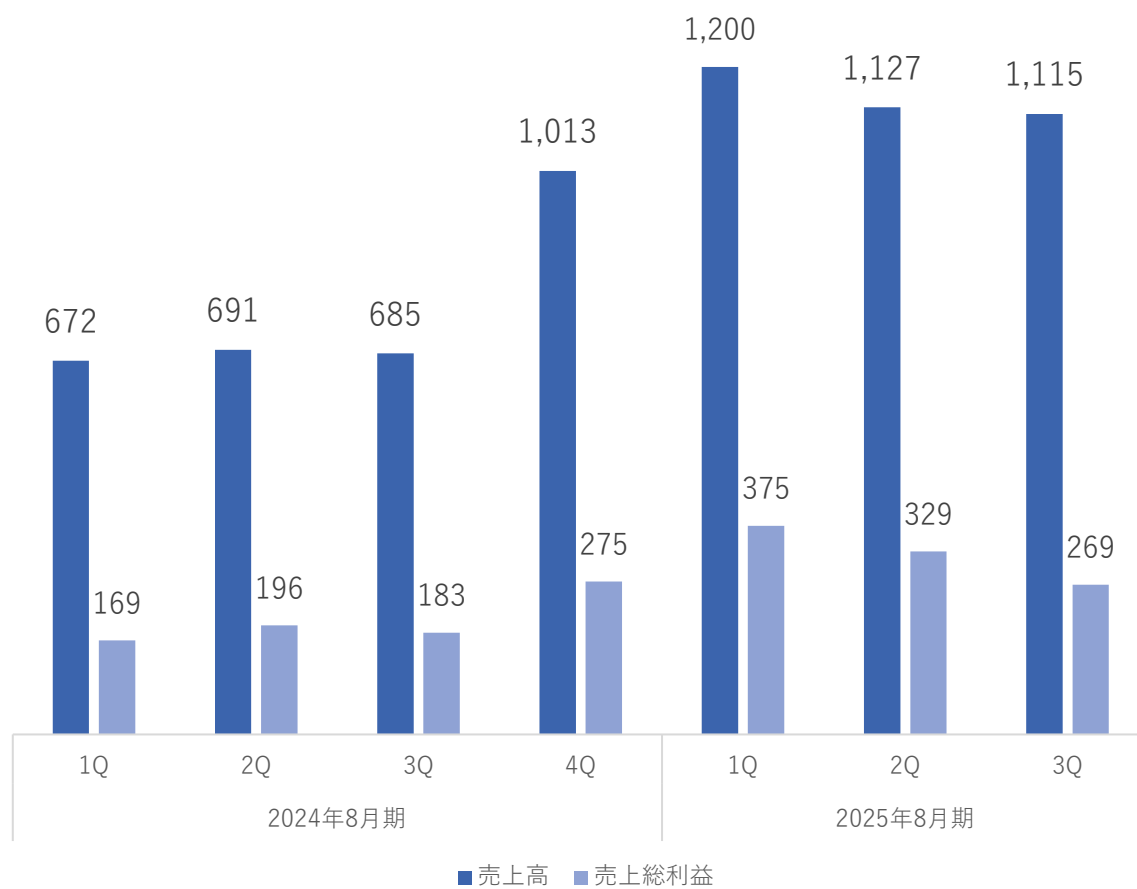


連結営業利益/EBITDA/経常利益/当期利益推移 (単位：百万円)



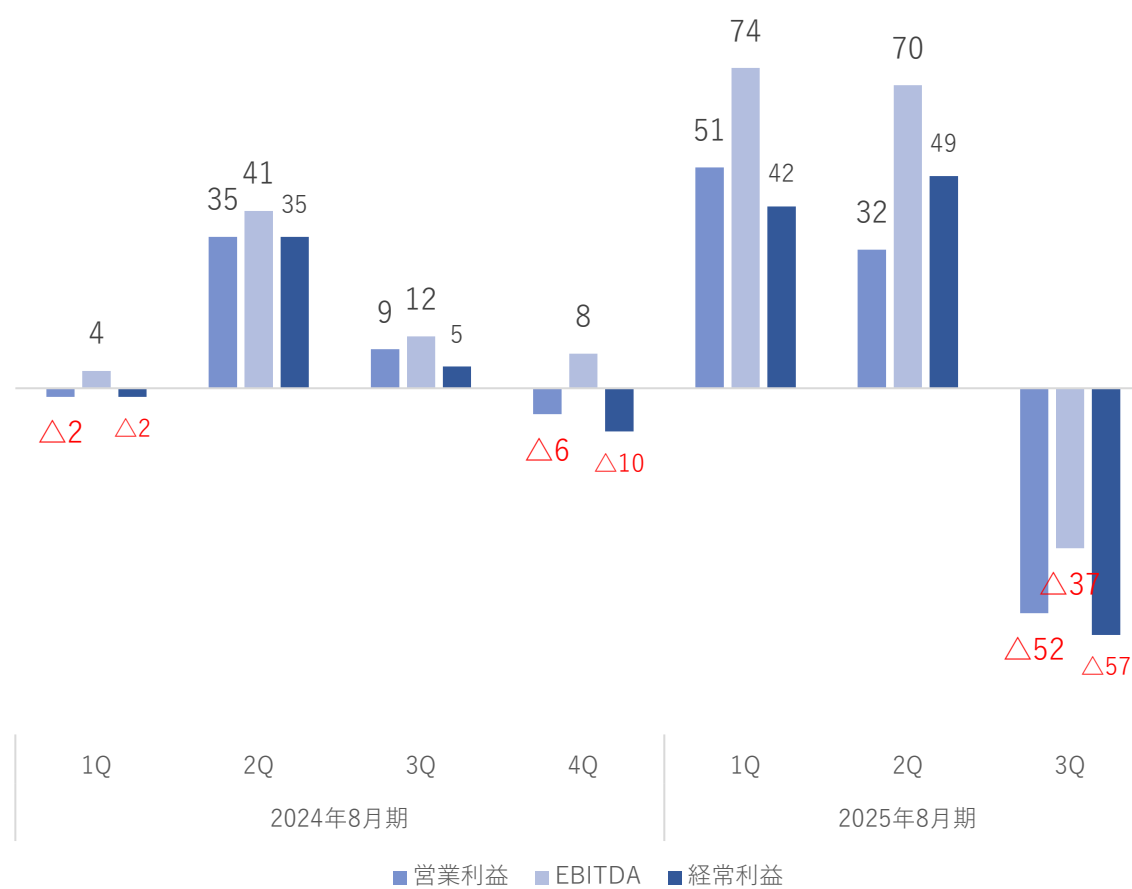
AIソリューション 売上高/売上総利益推移

(単位：百万円)



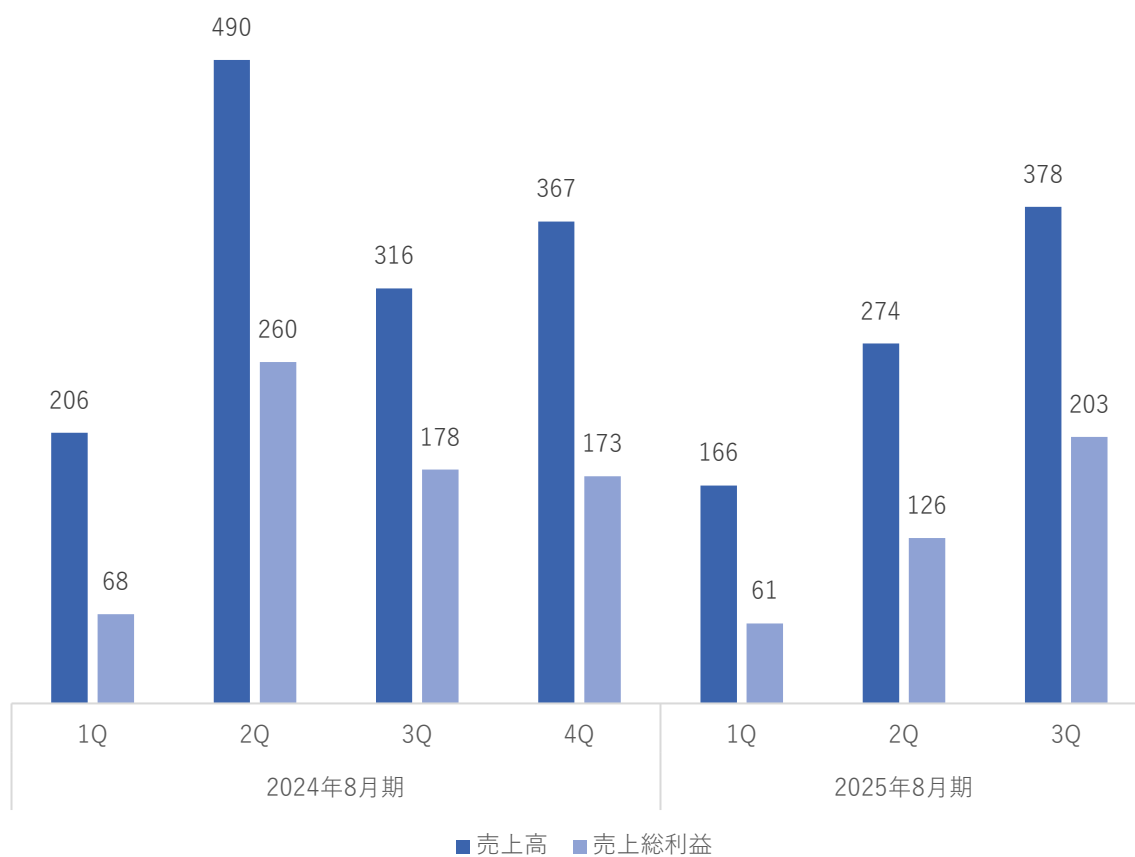
AIソリューション 営業利益/EBITDA/経常利益推移

(単位：百万円)



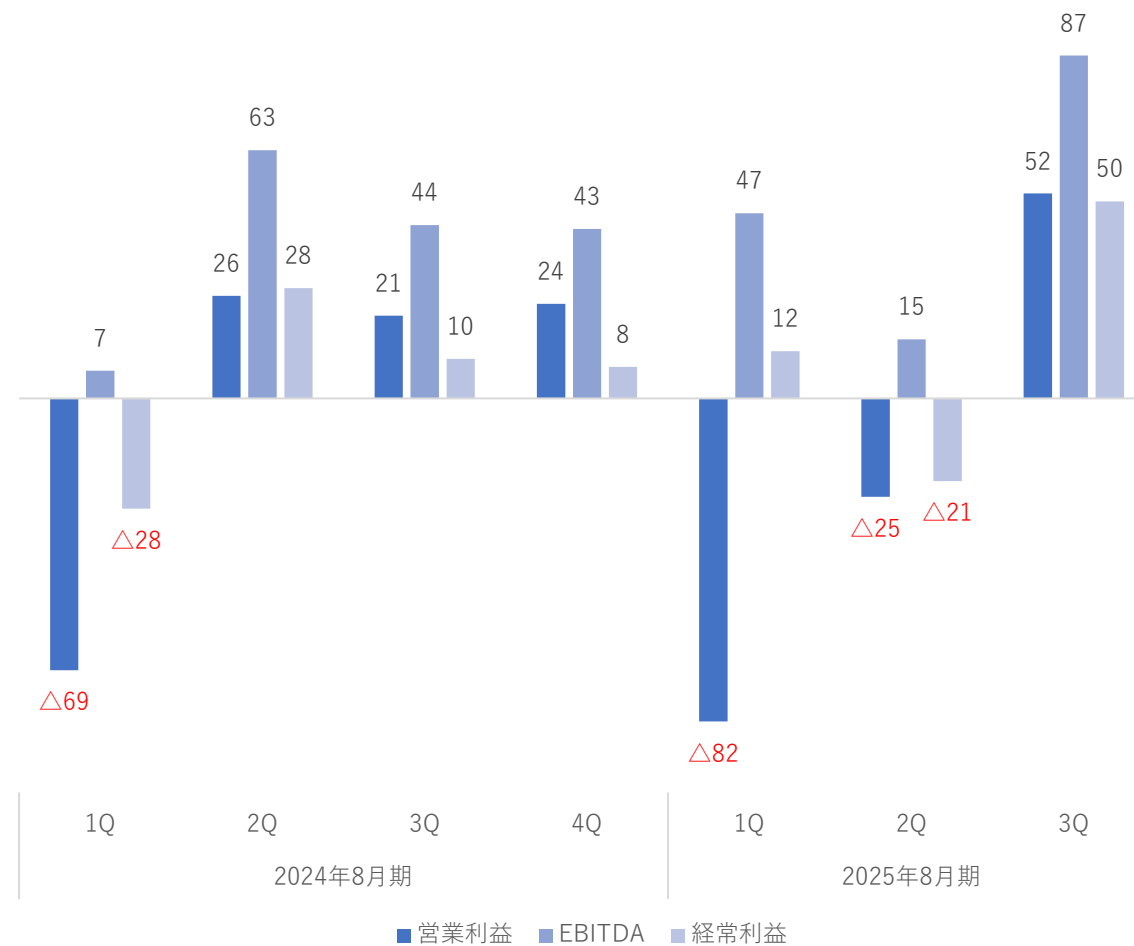
GPUサーバー 売上高/売上総利益推移

(単位：百万円)



GPUサーバー 営業利益/EBITDA/経常利益推移

(単位：百万円)



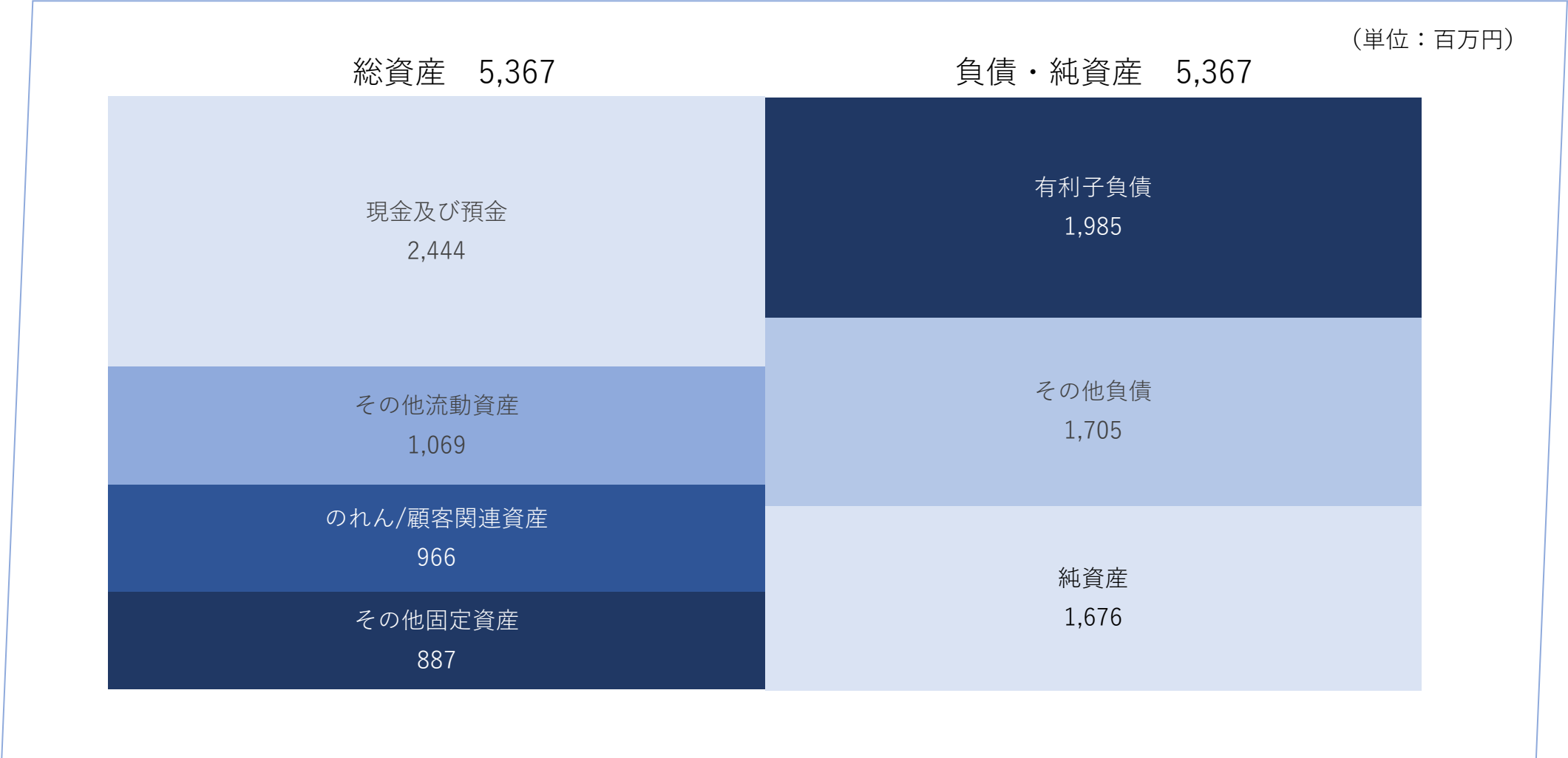
	2024年8月期				2025年8月期		
(単位：千円)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高合計	877,890	1,156,695	999,052	1,376,898	1,363,578	1,398,544	1,491,471
AIソリューション事業	672,836	691,431	685,210	1,013,335	1,200,700	1,127,434	1,115,695
GPUサーバー事業	206,553	490,313	316,992	367,312	166,178	274,109	378,476
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,700
売上総利益合計	236,853	432,613	359,494	445,551	433,712	453,037	470,431
AIソリューション事業	169,709	196,816	183,836	275,856	375,193	329,221	269,738
GPUサーバー事業	68,644	260,846	178,807	173,445	61,819	126,816	203,295
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,602
販売費及び一般管理費合計	309,825	370,539	328,881	426,994	463,289	445,773	470,060
AIソリューション事業	172,680	161,624	174,664	281,942	323,202	296,225	322,270
GPUサーバー事業	138,641	233,964	157,366	148,802	144,426	152,779	150,634
消去調整	△1,497	△25,050	△3,150	△3,750	△4,340	△3,231	△2,844

	2024年8月期				2025年8月期		
(単位：千円)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業利益・損失(△)合計	△72,971	62,073	30,612	18,556	△29,576	7,263	370
AIソリューション事業	△2,971	35,192	9,171	△6,085	51,990	32,996	△52,531
GPUサーバー事業	△69,996	26,881	21,440	24,642	△82,607	△25,963	52,660
消去調整	△2	—	—	—	1,040	231	241
EBITDA合計	11,060	105,598	56,980	52,013	122,357	85,723	50,147
AIソリューション事業	4,024	41,887	12,126	8,792	74,595	70,323	△37,338
GPUサーバー事業	7,039	63,711	44,853	43,220	47,762	15,399	87,486
消去調整	△2	—	—	—	—	—	—
経常利益・損失(△)合計	△30,723	64,323	15,816	△2,213	54,541	28,891	△6,899
AIソリューション事業	△2,613	35,524	5,767	△10,797	42,242	49,948	△57,458
GPUサーバー事業	△28,107	28,798	10,049	8,583	12,298	△21,057	50,559
消去調整	△2	—	—	—	—	—	—
税金等調整前当期 (四半期)純利益・損失(△)	△35,589	64,323	6,968	△142,421	44,256	30,493	△285,675
当期(四半期)純利益・損失(△)	△25,066	54,689	12,447	34,157	47,313	△9,361	△366,434

グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、**前期末と比較して、現金及び預金が830百万円増加、純資産は826百万円増加**しております。

(単位：百万円)	2024年8月期 期末	2025年8月期 第3四半期末	増減額
流動資産	3,028	3,513	+ 484
（うち現金及び預金）	1,613	2,444	+ 830
固定資産	1,889	1,854	△ 35
（うちのれん/顧客関連資産）	1,062	966	△ 96
資産合計	4,918	5,367	+ 449
流動負債	2,346	2,221	△ 125
（うち短期/1年内返済長期借入金 /1年内償還社債）	894	841	△ 53
固定負債	1,720	1,469	△ 251
（うち長期借入金/社債）	1,430	1,144	△ 286
負債合計	4,067	3,690	△ 376
純資産合計	850	1,676	+ 826
負債及び純資産合計	4,918	5,367	+ 449

グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、**現金及び預金が2,444百万円となり有利子負債を上回り、また純資産も1,676百万円まで増加し、M&Aや戦略投資を実行できる十分な財務基盤**となっています。



会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

CONTENTS

Appendix

Case study 製造業 A社

生成AIで自社製品問い合わせ業務を効率化

RAG（検索拡張生成）システムの構築

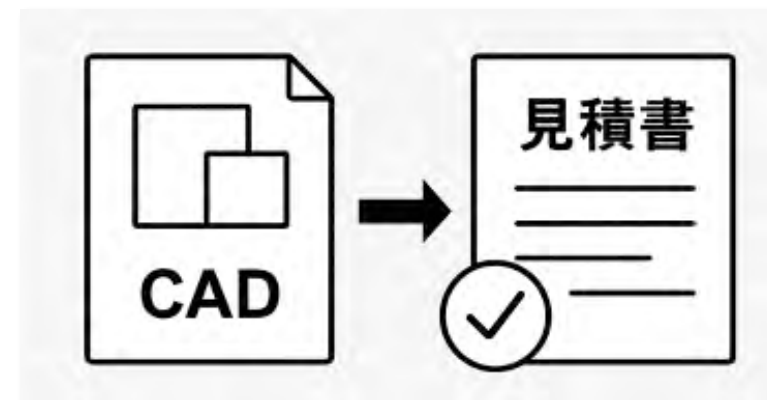


- ◆ 自社製品のマニュアルや過去のQAでRAG構築
- ◆ 既存のLLMで学習していないドメインデータや専門用語でも上手く回答できるようチューニング
- ◆ カスタマーサクセス部門の一次問い合わせの代行、作業時間大幅削減

Case study 製造業 B社

設計書図面(CAD)から見積書の自動生成

AIで自動作成、自動チェック



- ◆ 過去の見積修正履歴から、設計書の間違いを指摘提案
- ◆ 図面情報と自社対応する製品を組み合わせ、見積作成
- ◆ 作業者の作業を大幅に短縮、見積業務の属人化改善

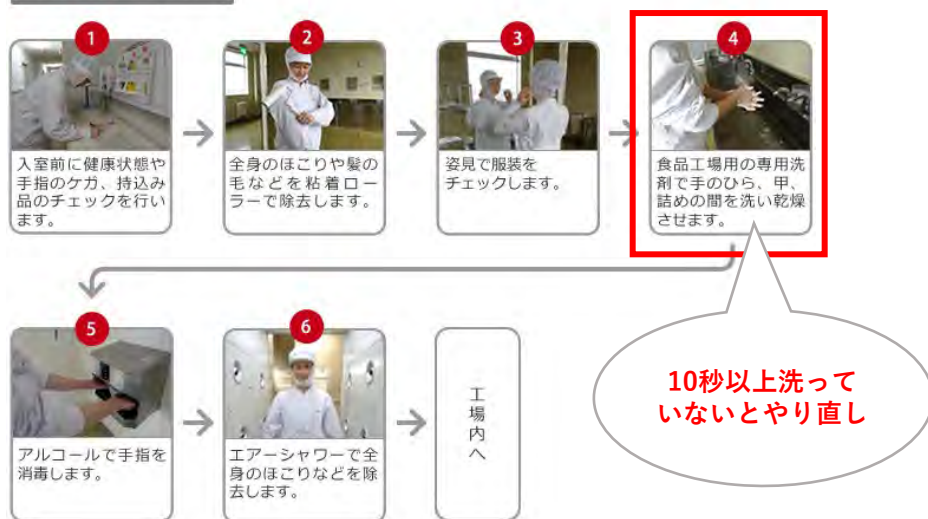


Case study 製造業（食料品）c社

食品工場における作業員の衛生チェック

顔認証AIを活用した業務管理自動化

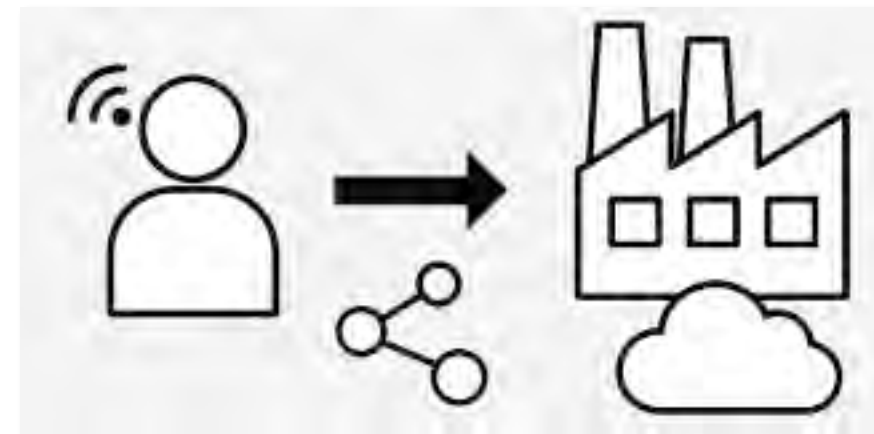
安心安全のフロー

<https://www.meijo.co.jp/security/factory/>

- ◆TOFセンサー*と顔認証を連動 *光の飛行時間を用いるセンサー
- ◆作業員がマスク・ゴーグル・手袋など装着しているか確認
- ◆作業員が白衣に着替えた状態で、静電気・コロコロ・除菌
- ◆衛生チェックをしていない場合は、工場内の入室ドアが開かないように制御

Case study 製造業 D社

工場における生産ライン設計の効果測定

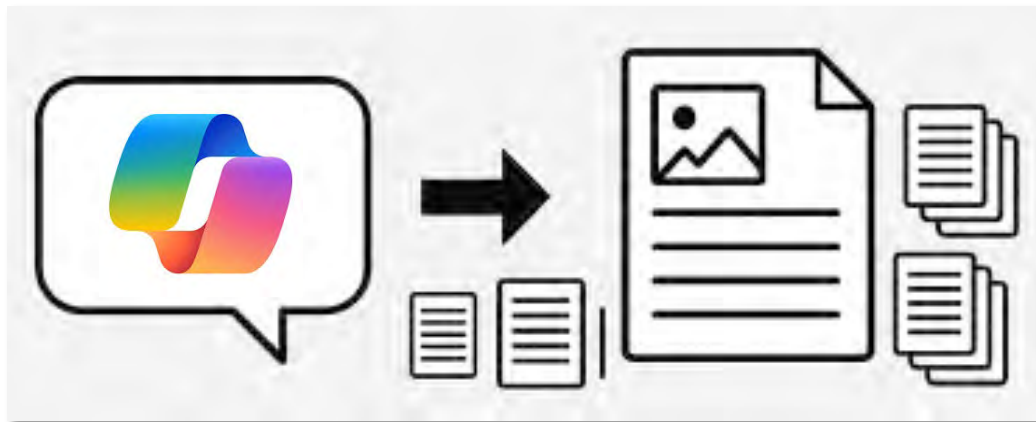
作業員の位置情報を可視化して
経路最適化と業務効率化に

- ◆Beaconを作業員に装着
- ◆工場に設置されたセンサーから位置情報を獲得
- ◆大量の人員と大量のトランザクションをAIがクラウド上で可視化
- ◆生産ライン設計の最適化にフィードバック

Case study 製造業 E社

社内向け生成AI導入サポート

セキュアかつ高速に業務活用を実現



- ◆複数企業への導入支援を開始
- ◆最短2週間で構築可能な高速開発レシピを提供
- ◆セキュアな環境で画像生成AIも利用可能

Case study 不動産会社 F社

AIで物件提案を支援するPoC

データ分析とマッチングAIで営業を革新



- ◆統計モデルと機械学習により成約傾向を数値化
- ◆顧客属性と物件特性のベクトル化による類似度計算
- ◆高精度なレコメンドで営業活動の精度と効率を向上

Case study 印刷業G社

文書校閲AIの技術支援

BERTを活用し幅広い文書の
自動校閲に対応



- ◆契約書・約款・プレスリリースなど多様な文書に対応
- ◆誤字脱字や二重敬語、表現の揺れを検出
- ◆専門用語の誤用や不適切表現も添削

Case study 飲食チェーンH社

画像認識AIによる調理品判定

レストランの提供品質を
AIで可視化・管理



- ◆厨房とホール間に設置したカメラで料理を自動判定
- ◆提供時間をAIが自動で計測しオペレーションを改善
- ◆将来的には盛り付けの正確さもAIで評価

Case study 製造業I社

よりセキュアなAI導入

エッジAIによる機密性の
高い現場での顔認証

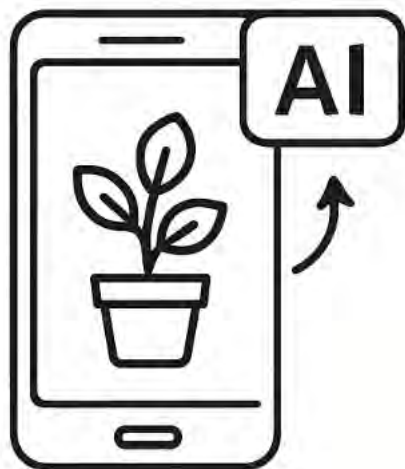


- ◆クラウド未使用環境に導入可能
- ◆産業用CPUボードやGPUエッジ端末への組込実績あり
- ◆セキュアな顔認証を現場単体でリアルタイムに実行

Case study アプリ開発 J社

植物判定AIの精度を大幅改善

画像判定アプリの機能を
画像認識技術で強化



- ◆AI判定精度を50%から90%以上に向上
- ◆犬猫など非植物画像との判別精度も向上
- ◆品種追加やメンテナンスが容易な設計実現

Case study 生花ECサイト K社

生花トレンド可視化システム

SNSと出荷量データを統合
需要を分析

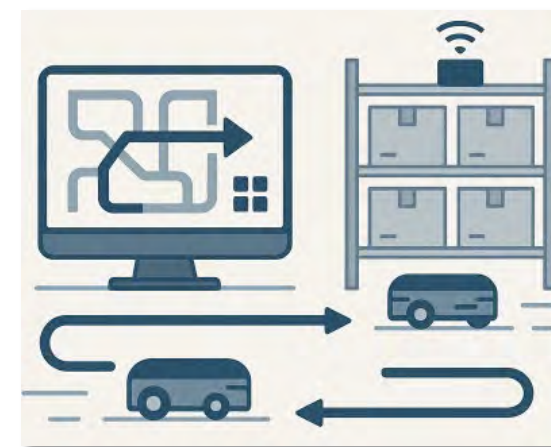


- ◆生花ECサイトと卸売市場の情報を連携分析
- ◆品種ごとのSNS反応と出荷量の関係性を可視化
- ◆バズ検知や傾向分析で仕入・販促をデータで支援

Case study 物流業 L社

無人搬送車の経路最適化AI

倉庫内搬送効率向上に向けたPoC



- ◆ヒューリスティック手法で渋滞を回避し再ルート提案
- ◆モンテカルロ木探索により搬送量を考慮した経路選択
- ◆強化学習で自己学習し搬送効率最大化を目指す設計

グループ会社のゼロフィールドは、株式会社マックハウスと暗号資産事業に関する基本契約を締結。ゼロフィールドが持つマイニング基盤や技術・運用ノウハウを活かし、マックハウスの暗号資産事業推進を支援します。今後も拠点拡充や技術強化を進め、AI分野への展開も視野に、事業成長と安定運用を目指します。

ZEROFIELD

Mac-House

ゼロフィールドの支援内容

- ・マイニング拠点の選定・構築に関する支援
- ・機器選定、導入、運用支援
- ・電力コスト最適化やESG対応を含む持続可能性設計
- ・暗号資産市場の動向や技術トレンドなどに関する情報提供
- ・今後のNFTやブロックチェーン活用に向けた技術支援
- ・ビットコイントレジャリー事業の支援

これらにより、マックハウスが掲げる暗号資産の「購入（保有）」と「発掘（マイニング）」を両輪で進める独自戦略の円滑な実行を支援



項目	リスク	対策	発生可能性	影響度
事業環境の変化	AIソリューション事業の領域には国内外多くのIT企業が参入しており、市場は形成期にあります。生成AIによる大きな変化が生じる中で、事業環境がさらに大きく変化する可能性があります。	最新の技術動向や市場環境の変化を把握できる体制を構築、AIに関する論文のサーベイ、マーケティング調査の実施のみならず、業界のオピニオンのキャッチアップを仕組み化しております。	中	中
画像データの利活用に関する法令などの規制	単に個人情報保護法等の法令を遵守するのみならず、プライバシー保護の観点より考慮する必要があります。関連する法令等が改正され、あるいは社会的な要請が大きく変化した場合には、事業に影響を及ぼす可能性があります。	総務省・経済産業省より公表された「カメラ画像利活用ガイドブック ver.3.0」（2022年3月）を参照し、法令及び社会規範上認められると判断した範囲内において、画像情報の利活用を行っておりますが、今後も関連法案の修正に備えセキュリティ技術の向上に努めております。	中	大
個人情報の保護	「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者として義務を課されており、プライバシー保護の観点から広範な配慮が求められています。情報の漏洩、不適切な利用等について配慮が不足した場合には、レピュテーションリスク等によって事業に影響を及ぼす可能性があります。	情報の漏洩防止はもちろん、不適切な利用等の防止のため、情報管理を経営上の重要事項と考え、社内においてもこれらの情報へのアクセスを制限するとともに、「情報セキュリティ管理規程」「個人情報取扱規程」等を制定し、全従業員に対する社内教育を実施するなど、法令及び関連するガイドラインの遵守体制を整えております。	中	大
暗号資産の市場価格の変動	株式会社ゼロフィールドは、暗号資産のマイニングマシンの販売を主な事業としております。暗号資産の市場価格はボラティリティがあるため、当該価格が低迷する場合、マイニング報酬が減少するため、同社の顧客層のマイニングに対するインセンティブが損なわれ、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	これまでの販売実績をベースに、市場動向に合わせた販売施策を実施しております。加えて、暗号資産の市場価格の変動に左右されない、高性能GPUサーバーの販売やデータセンター運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大
固定資産の減損	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXの子会社化に伴い、のれんをはじめとした固定資産が増加しています。事業環境の変化に伴い、それぞれの事業が計画通りに進捗せず、将来キャッシュ・フローの低下が見込まれる場合等には、減損損失を認識する必要があります。多額の減損損失を認識した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXのグループイン後、それぞれの会社に当社より取締役を派遣し、また当社管理部門の事業管理業務への参画により、ガバナンスを強化し、また既存事業の運営だけでなく新規事業開発に共同で取り組んでおります。	中	大

- 2024.04.22 大規模自治体で初、世田谷区がAI顔認証を勤怠管理に採用—非常勤職員向けにトリプルアイズが提供
- 2024.05.07 トリプルアイズ、医薬品卸クラウド販売管理システム「PRISM」事業譲受 医薬品の安定供給をDXで推進
- 2024.05.27 自動車×AIの融合でオンリーワン企業へ—トリプルアイズ、BEXをグループイン
- 2024.11.18 トリプルアイズ本社移転
- 2025.01.16 製造現場のAI化を推進！ トリプルアイズとイノテックがエッジ顔認証を共同開発
- 2025.03.17 LINE WORKSの初期設定がより簡単に無料で！—「アルろく for LINE WORKS」がLINE WORKSのアプリディレクトリに追加
- 2025.03.19 “これからの若者にぜひ手にしてほしい一冊”—『生成AI時代の教養』が日経新聞で紹介
- 2025.05.14 顔認証によるなりすまし防止システムを紹介「成果を出すAI活用EXPO2025」に出展

2023年8月期以降、株式売買高の反応が相対的に大きかったリリースを任意に記載しております。

2023.04.17	4月17日（月）夜10時より放送のWBS内にてトリプルアイズの顔認証技術が紹介されます	メディア
2023.07.27	株式会社ゼロフィールドの 連結子会社化について	M&A
2023.11.13	アルコール検知器大手とシステム連携 ―中央自動車工業とサービス提供開始	新サービス
2024.04.15	「LINE WORKS」と連携 顔認証アルコール検知システム「AIZE Breath」	新サービス
2024.04.22	大規模自治体で初、世田谷区がAI顔認証を勤怠管理に採用―非常勤職員向けにトリプルアイズが提供	新サービス
2024.05.27	自動車×AIの融合でオンリーワン企業へトリプルアイズ、BEXをグループイン	M&A
2024.08.28	募集新株予約権（有償ストック・オプション）の発行に関するお知らせ	開示情報
2024.09.05	半導体業界トップの知見を活かしGPUサーバー事業を加速 ―ゼロフィールド技術顧問にNEC初代スパコン開発者の久保江勝二氏が就任	開示情報
2024.09.17	株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスとの資本業務提携、 第三者割当により発行される株式の募集に関するお知らせ	開示情報
2025.01.16	製造現場のAI化を推進！ トリプルアイズとイノテックがエッジ顔認証を共同開発	新サービス
2025.07.07	トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドがマックハウスと暗号資産事業に関する基本契約を締結 豊富な知見と実績を活かし、暗号資産事業の戦略的な立ち上げを支援	開示情報

AI	AI(Artificial Intelligence：人工知能)とは、人間の知的ふるまいの一部を、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。経験から学び、新たな入力に順応することで、人間が行うように柔軟にタスクを実行する。
特徴量	特徴量とは、コンピュータが学習するデータにどのような特徴が含まれているのか数値化したもの。
エンジン	エンジンとは、特定の情報処理を実行するためのひとまとまりになったソフトウェアやシステムなどのこと。
システム インテグレーション	システムインテグレーション（System Integration：SI）とは、企業の情報システムの導入に際し、ユーザーの目的に応じた企画の提案からハードウェア、ソフトウェアの選定、システムの開発や構築、運用までのトータルなサービスを提供することを指す。
DX	DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念であり、企業においては、概ね「AI、IOT、クラウドコンピューティングなどのテクノロジーを利用して、ビジネスモデルや製品・サービス及び業務・プロセス・組織風土を変革させ、競争優位性を高めること」という意味合いで用いられる。
Sier	Slerとは、クライアントの業務を把握・分析し、その課題を解決するようなシステムの企画、構築、保守・運用までの全工程を一貫して請け負う業者を指す。
ブロックチェーン	ブロックチェーンとは、データが地理的に離れたサーバーに分散保持され、一定の形式や内容のデータの塊（ブロック）を改竄困難な形で時系列に連結していく技術。
IoT	IoT（Internet of Things：モノのインターネット）とは、あらゆる「モノ」がインターネットに接続される仕組みのこと。
オンプレミス	システムの稼働やインフラの構築に必要となるサーバーやネットワーク機器、あるいはソフトウェアなどを、使用者が管理している施設の構内に機器を設置して運用することをいう。
マイニング	暗号資産（仮想通貨）のマイニングとは、取引などのデータをブロックチェーンに保存する作業を行い、その報酬として暗号資産を得る行為のこと。
プロンプトエンジニアリング	生成AIは、命令（プロンプト）の出し方によって、出力されるコンテンツの質が大きく異なるため、AI（人工知能）から望ましい出力を得るために、指示や命令を設計し最適化する技術のこと。
ファインチューニング	機械学習において、大量のデータで事前学習されたモデル（事前学習済みモデル）に対して、解きたいタスクに応じた独自のデータを追加で学習させ、新たな知識を蓄えたモデルを作り出す技術。
GPGPU	General-purpose computing on graphics processing unitsの略。GPUの演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術のことである。
トークン	企業または個人により、既存の暗号資産（仮想通貨）をプラットフォームとして、そのシステムを間借りする形で発行される、独自のブロックチェーンを持たない暗号資産のこと。広義では、既存の暗号資産そのものをトークンと呼ぶこともある。



Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。